

茨城統計五號

卷頭言

今秋十月一日を以て、中間國勢調査が行はれる。昭和五年の國勢調査以後における我國の人口及び人口の構成が、如何なる推移を辿つてゐるか、我が國勢が如何なる傾向を示しつゝあるか、この中間調査によつて明瞭にされる譯である。

或る一定の時を期せず、時間的に連続して行ふところの所謂、人口動態調査は、歐洲では十五世紀の昔から行はれてゐるが、一定の時を期して、一舉に行ふ所謂、人口靜態調査は、一七九〇年北米合衆國に行はれたのが初めである。

我が國に於ける近代的意味を有する大規模の國勢調査は、大正九年十月一日午前零時を期して行はれたものを以て、空前の大業となされてゐるが、歴史は極めて古く、第八世紀初頭に當る大寶二年の大寶令は、戸籍を六年毎に作製することを規定し、里別に一卷とし、老少疾以外の民を正丁、次丁、中男に分ち、課口の別を立て、戸の等級を設けたと物の本にも書いてある。又、徳川時代にも島原一揆後、切支丹取締の必要から僧侶をして、宗教的人口調査を行はしめたことがある。

言ふ迄もなく國勢調査は、戸口を正して經國の基となすもので、不完全ながらも古來斯くの如く、殆んど歴代これを行ひ來つたゆゑんも亦茲に存するのである。この國家的大業が今から五ヶ月後に行はれる。我等はその意義の重大なるに鑑み、機會ある毎に國民の自覺を促し、相戒め、相扶けて萬遺漏なきを期し、この大業を完成せしめねばならぬ。



農家組合の設置により

「統計の完璧を期せ

縣農會技手 加倉井 哲

一、農家組合設置獎勵計畫

農村の經濟更生を圖るは刻下の急務である。而して經濟更生活上計畫すべき施設事業は極めて多く之れが貫徹には農業者の指導と自覺を促すことが必要である。然るに従來の農事諸般の改良事業は官廳、農會、其の他の産業團體の勸奨によつて、一部の精農家により實施せられたるに過ぎない。大多數の農家は依然として孤立農業を營み、舊慣を墨守する爲遅々として農業は進歩せず、之れが經營は時代に順應せず、従つて收支の均衡を失し、經濟益々不如意となり、困難なる生活は負債によつて一時を糊塗しつゝあつたのである。之れが爲現在では縣下を通じて一戸平均八百余圓の負債の重壓に苦みつゝある。故に今後は個人の指導を廢し農家全般に對し之れが普及徹底を圖ることが極めて肝要である。それが爲には指導の單位たる團體、實行の基礎團體を設置することが第一である。即ち部落毎に農家組合を設置せしめ、組合員の協力に依つて更生全般の仕事を勵行せしむるを以て最適なりと信するのである。此の農家組合は農業經營状態の類似せる各部落内の適當農家數を以て組織せしめ既設の各種組合を農家組合に包擁統一し、以て單一組合の濫設を防ぎ、隣保親善、協同相助の精神に基き、町村農會、産業組合其他産業團體

の聯繫を圖るべき細胞として農事改良、農家經濟の充實を圖るべき自主的實行機關たらしむると共に、町村農會技師員の指導を組合本位とし、共同の力により有終の美を擧げんとするのである。

二、農家組合設置の二大方針

(一) 組合の統制

現在農村に於ける組合の名稱並に數は甚だしく多し、名稱に於て受檢、採種、農事實行、農事改良、農家、實行、農事、共同作業、農事共同、農業共同經營、動力利用、農事電化、縣是實行、向上、普通蔬菜、果實蔬菜、出荷、養豚、養鶏、籾、加工、促成蔬菜、藁工品、林産物、共同出荷、煙草耕作、堆肥、集團指導地、更生實行、生活改善、防疫、貯金、納税、愛林、自家用醬油醸造、改良組合其他農事研究會、一心會等三十八種に及び、數に於て部落受檢組合六千百を筆頭に、採種組合の五千八百三十七、動力利用組合二百七十、農事組合百八、農事實行組合百等々、實に一萬四千有余に達する状況にある。而も組織せる農家は只一人にして幾多の組合に加入せるは誠に繁雜に過ぎ多額の經費と、時間の空費とを要するにも拘らず、何れの事業も不徹底に歸する爲、之れが統制を圖り今後四ヶ年(九年度より)後に於ては、農村には法律上認められておる産業組合、農事實行組合、養蠶實行組合の外は任意組合として農家組合只一つに統制し、従つて従來の組合は解消して農家組合の部制内に抱擁統一せんとするのである。即ち受檢組合の仕事は受檢部、採種組合の仕事は採種部、動力組合の仕事は動力部と云ふ如く組合名稱解消と同時に部門を置き、之れによつて組合員の指導督勵をなすのである。

(二) 隣保相助の精神作興

農業經營程他の職業に比較し共同の必要なるものはあるまい。即ち生産方面に於て、例へば採種にしても、種苗の購入にしても、或は病虫害の驅除豫防にしても、個人の實施では効果が少ないのである。又販賣の如きものに

りては、生産者團結して大量の生産と販賣の統制が最後の勝利を得ることは申す迄もない。又肥料の購入の如きに到りては特に共同により良質廉價のものを手に入れることが生産費遞減上必須の要件である。斯くの如く幾多の事業は殆んど共同により解決出来ることは言を俟たない。然るに外來思潮の關係か個人主義の發達と農民の無自覺により動もすれば、古來の隣保相助の精神が薄らぎ、共存共榮の精神が没却されつゝあることは誠に遺憾に堪へぬ、依つて組合の設置統制により之れが精神作興を圖らねばならぬのである。

三、組合設置の目的

(一) 實行の基礎團體として

農村經濟更生上農村百年の大計を樹立することは左程困難の事ではないが、之れが實行件はされば何等効果の擧るものではない。従來指定され、計畫樹立せる町村に於ける實績の擧らざるは之れが實行の件はざる爲で、殊に町村の計畫は大量に過ぎ直接個人の計畫に適せざる場合が多い。町村計畫に基き部落計畫を定め、之れに準じて個人の經濟改善を必要とする。此の場合に於ける即ち町村計畫及び部落計畫の實行の基礎團體として設置の必要がある。

(二) 指導の單位として

既に述べたる如く町村内數名の精農家の指導は一般に徹底せざるのみならず、數名の經營改善による向上は町村發展上何等益するものではない。全村民一致共同して經營を改善し、福利増進によつて初めて一家榮え、一村の繁榮となるのである。従つて今後は一名若くは數名の指導を廢し、團體指導となす必要がある。殊に先年農産物検査制度の改正によつて一町村一名の技術員が町村に駐在することになり、一方に検査を控へ、他方に農事各般の指導をなすことになつて居るが、余力尠なく到底個人指導の出來べき筈がない。故に指導は一人の指導も團體の指導に

變りはないのであるから指導の單位として農業組合を設置し指導することになるのである。

四、組合の設置獎勵並に組合の組織

(一) 組合の設置獎勵

農家組合の設置獎勵は縣、郡農會に於て農家組合設置獎勵規程に準據して町村組合並に駐在技術員を指導督勵し五ヶ年内に十八萬余の全農家を網羅せる六千の組合を設置する。

(二) 組合の組織

農家組合設置獎勵規程に定めたる通り、地形、境遇、生活狀態、慶弔を共にする一部落を單位として設置するのである。而してあまり大に過ぎるものは組合の統制に欠陥を生じ少なきに過ぎるものは組合員の結束は充分なるも事業經營上之亦種々の欠陥あるを以て員數は大体三十戸内外を標準とするもあまり之れに抱泥することも考へもので、此の点は古來の會同の習慣を基礎とすることが必要であると思ふのである。

(三) 組合の事業

農家組合は既に述べたる目的により設置されたのであるから部落計畫の實行は勿論左の事業は必ず行ふことである。(補助金交付の必行事項)

- (イ) 米麥其他農作物の採種圃の經營
- (ロ) 農産物の共同受檢
- (ハ) 主要農産物の共同販賣
- (ニ) 肥料の共同購入並に自給肥料の増産

(四) 組合の指導

凡ての組合の設置は左程困難にあらざるも従來の組合の如く型のみに止り、内容即ち魂がはいらねば何の事業も出来ぬ。故に組合員の親善融和を主として

- (一) 組合は毎月又は隔月一回會合を催し組合の事業に就き協議研究をすること——之れによつて組合の事業を定め改善すべき事項は之を改善し組合員共同向上の途を講ずるのである。
- (二) 市町村農會に於ては毎年二回以上組合長會を開催し事業實行に關する研究協議をなす。
- (三) 郡農會は毎年一回組合役員を召集し組合經營に關する研究會を開催すること。
- (四) 組合の事業の實行に關しては町村、町村農會は勿論事業に應じ夫々縣關係課、農事、蠶業各試験場縣郡農會、農産物検査所、産業組合、教化団体等の指導を受けること。

五、農家組合の經營

農家組合の組織成れば之れが代表者として先づ組合長を、組合長事故ある時之れが代理すべき副組合長を選舉し更に各種組合の抱擁並に必行事項の各部門に部長を置くことになる。即ち前にも記せる如く採種組合長は採種事業に關し技術並經驗ある者を以て適所に適材の意味から採種部長とし、受檢組合長は受檢部長、納稅組合長は納稅部長、堆肥指導員あれば自給肥料部長となり、又貯金組合長は貯金部長に、或は販賣部長、購買部長、衛生部長、警備部長、又女世帯にて他の事業部長になれぬれば會合部長として會場の準備(湯茶)等に當り、未青年にして活潑なる者は通知部長にする如く組合員全員が全責任を以て、一人一役を負ひ適所に適材を利用せば圓滿に經營が出来るのである。殊に組合に於ては部落計畫を樹立する爲部落内の基本調査をなさねばならぬ。之れが爲には其の部落

内の統計調査員を調査部長として調査各般の事務に當らしむるのである。若し統計調査員なくも調査部長の必要なるは言を俟たない。即ち各般の事業は調査部長に於て取纏めをなすので生産部に於て其の年度の各種作物の栽培反別、收穫高、販賣高、自給高等を知る必要上調査し、販賣部に於ては米麥其他販賣高が判り、購買部は肥料其他生産必需品の購買高が判る等、其の組合内の生産其他一切事業上の數字が明瞭となる譯である。即ち農家組合の設置活動により統計上必要なる各種項目は全部組合員會合の機會に於て明瞭となるので頗る簡易に而も正確に調査が出来るのである。

茲に於て町村内の統計を完備せしむるには組合内に必ず調査部(六十人を要す)を設置し、之れが統制は町村役場内の統計主任が當れば統計の完璧を期することが出来ると思ふのである。即ち農家組合の指導は只單に農會の仕事の如く考へられるも、農村の開発は農村内にある各種産業団体と町村と渾然一体となつて統制ある指導がある場合に活動し、發達し、繁榮することを忘れてはならないのである。

夏の景物帽子の大きさ

初夏だ、名もなき道ばたの一木一草にも太陽の光がキラ／＼と輝いて、萬物悉く生々潑潑たるものがある。そしてバランスに、そして麥藁帽子に、街頭は彩られるのだが、その麥藁帽子の寸法を諸君おわかりかね、オレの帽子は、おだの、おだのとよくいふ、帽子の大きさは違ひないが、一体どれだけの大きさか、由來何んでも知つて居るべき筈の調査員諸君の建前からいつても心得居つてわるくはあらず

	邦 尺(周)	英 尺
	$1\frac{1}{2}$	二十吋八分七
	$6\frac{5}{8}$	一尺七寸三分
	$6\frac{3}{4}$	一尺七寸六分
	$7\frac{3}{8}$	一尺八寸
	7	一尺八寸三分
	$7\frac{1}{8}$	一尺八寸七分
	$7\frac{1}{8}$	一尺九寸
		二十二吋四分三

統計模範町村を訪ねて(2)

夏の味覺をそゝる

『新大和』西瓜の原産地古里村



一 記 者

三月二十三日朝。縣西境町へ行く川崎課長と別れて新治驛に下車。坦々たる縣道——誰かと教へてくれた下條道路を、花を誘ふ三月の風に吹かれて屈託なく歩いた。

麥は青々と大地に息ついてゐる、菜の花は黄の毛氈を敷いたやうに咲いてゐる、雲雀は空高く轉つてゐる、博勞がのんびりと何頭かの仔馬を導いて行く。

一幅の名畫だ、珠玉の詩だ、さういへば情熱の女詩人下條綾子女史の處女詩集は、こゝから生れたのだつた。

かうした長閑かな環境の中を行くこと一里、目ざす眞壁郡古里村役場に着いた。かなた遙かに筑波山が、たゞすまひを正して大きく控えてゐる。

古里は、前號誌上で御承知の如く、今春二月十一日、統計功勞者として縣の表彰に浴した統計調査員鈴木弘重氏を出した處である、協會から表彰された統計主任戸頃晋氏を出した村である。

更にわかりよくいへば縣會議員下條豊氏の郷里で、村長下條泰次翁は豊氏の嚴父である、謹厚順和の老紳士で、吏員が少いので老齡を厭はず毎日出勤して盛んに事務を執つてをられる。

統計主任戸頃氏に導かれて階上會議室に入り、統計上のいろ／＼な書類をみせて貰つた。幸ひ鈴木弘重氏も先代からの古い書類を携へて立會つてくれた。

戸頃主任は誠に穩かな、そして事務には頗る熱心で、眞面目に過ちなくコツ／＼と勤めを果していく、いはゞ石橋を叩いて歩くといふ堅實な人だ。先きに同村助役も勤め、村治に貢献するところ頗る多い。

かうした地味な堅實な人が、無味乾燥な統計事務を處理し



【列前】下條晋氏、向次郎氏、右藤英夫氏、かか戸頃英夫氏、調査員鈴木弘重氏、木村重氏、中央氏、長村同氏、計同氏

て、縣下の模範村と迄謳はるゝにいたらしめたには無論、人知れぬ大きな苦心もあつた。お粗末なゴマ鹽髭をむしりながら戸頃氏は

何しろ十數年前は統計なんてテンデわからないんだから骨が折れました、何處でも同じやうに課税の基本にでもするかに考へられますので「統計は決して他に渡したり、税金等に關係したりするものぢやない」と囁んでふくめるやうに村民に説明し、そして出來あがつた統計の結果を表にして配付したり、細々注意を怠らなかつたので漸くわかつて來ました、最初村勢要覽を作つて配りました處が、鶏が何羽ゐるの、豚が何匹ゐる迄ハッキリとわかつたので、「役場ではどこでこんなことを調べたんだらう」なんて統計とは氣づかんで驚いたものです、ココぞとばかり「これが皆さんが大變心配された統計だ」と言つて聞かせると「へー」と、いつて又ビツクリしたといふやうな挿話もありました、斯うまでするには調査員諸君の努力と苦心は勿論であります、村長さんが頗る理解ある方で我々を督勵してくれたからです。

統計調査に就ては昭和四年度から小票調査を實施し、農林商工及び内務統計に至るまで法規通り小票を用ひ、法規以外のもの即ち家畜調査等迄も全部小票を作つて獨特の調査を行つてゐますから、役場へ來て小票を御覽下さると村勢一目瞭然、手に取る如くで、自慢のやうですが是れだけは大いに誇りとしてをります。

紀元節に鈴木弘重氏と、この戸頭主任が揃へも揃つて表彰にあつたつたと聞いて早速、郡内河間村から國府田主任が調査員を連れて視察に來たさうだが、小票の整頓してゐるのを見て「成る程是れなら何でもわかる、百聞は一見に如かずだ」といつて多々得る處あつて歸つたといふ。

まくわ瓜年産五萬

目ざとい種苗會社

この村は、その名、古里の如く、人情敦厚、立派な縣道が村の中央を貫通してゐるが自動車などの騒音も聞かない、如何にも吾人の「ふるさと」へ歸つたやうな氣持ちがする。面積は東西三十町、南北一里五町、戸數五百五十九戸、人口三千五百十三人、田は二百九十五町四反、畑四百九十七町六反で古來蔬菜の元祖といはれ、瓜ばかりで四十町歩も耕作する、その中で最も多いのは「まくわ」瓜で年産五萬圓、一反歩四百圓になる、近頃は西瓜の需用が著るしく増加し、ドシ／＼東京方面にはけるので西瓜の栽培に力を注ぎ「新大和」の名を以て賣出してゐる、味ひ甘美、鹿島西瓜と並び稱せられるが鹿島より時期が少しく遅れるのが欠点とされてゐる「まくわ」も匂ひとアヂで夏の味覺をそゝる金瓜だから評判がよい、その他白瓜、胡瓜、南瓜等瓜類の産出頗る豊富で且つ品がよいそこへ目をつけたのが東京種苗會社で、近來賣出しの西瓜新

大和の種は大部分古里で採取され、外に白菜の種等もあつて蔬菜の種子だけで年産三萬圓に上つてゐる。是等瓜類は土地が古くなつてはまづい、新地々々と撰んで行くので年々二町歩位づゝ山林を開墾し、古い處には樹を仕立てる差引大したちがひはないが、それでも畑地は年と共に幾らかつゝ殖えて行く。見渡すところ現在ですらこの村にはあまり山林がない、碁盤の目の如く整理された田と畑だ、聽ては青木が影をひそめるのではあるまいか。

烈々たる更生の意氣

村民一體となつて働く

瓜に次いで近頃村民が力を入れて來たのは小麦で、縣の五年計畫小麦増殖方針に則り、八年度から馬力をかけてゐるが、同年度には反別増收で縣から三等賞を貰ひ、九年度には縣の三等、郡の方では大字桑山字堀ノ内の大久保徳太郎氏が反當り十一俵半を收穫して二等賞を贏ち得た。

聞く處によると、この村の土地は四割方隣接谷貝、長讚等他町村の人が持つてゐる、何とかして之を村の手に返したい村に戻したい、この熱烈な愛郷心から村民一體となつて働いてゐる、先年、腐朽住むに堪へずして現在の役場を建築したが、これは永年心掛けてた役場費の繰越金で作つたので、その代りどうにかなる迄吏員は増さないといふ心の誓ひで、村

長さんはじめ、汗だくで二人分も三人分も働いてゐる、學校は起債で改築したが是も今年で済むので更に別棟を一萬二千圓で新築すべく豫算に繰入れた。斯うして出来る丈け不足窮乏を耐えて村民の懐ろを富まし更生一番、村のものは村に戻すことだと燃ゆるが如き氣魄を以て働いてゐるのだ。

家畜調査小票によると村内に八頭の山羊がある、何れも育児用の乳を採るためで、そこにも潑瀾たる更生の氣分が窺ひ知られる。

元氣に燃ゆる調査員

貴い文献米調査圖

斯くの如くこの村が擧つて更生の一路を辿るにいたつた動機の如きも統計によつて數字的に村勢を知ることが出來たからで、戸頭主任はしめ調査員諸君の努力の報ひが來たといつてもよい、かうして効果的になつてこそ、はじめて統計の有難さもわかる譯だが、全くこの村の調査はよく整つてゐる、就中米生産調査圖は千二百分の圖面で全部で十八枚、作柄を上中下に色別けしてある。これをひろげると村内耕作者の耕作地も作柄も一目でわかる、統計上の貴い文献として長く保存するに足るものと思はれた。

左に調査員諸君の氏名と年齢を掲げてみよう、若くして元氣一ぱいな人々のみだ。(○印は村會議員、×印は區長)

- 第一區 戸頭藤一郎君 (四十八)
 - 第二區 上野庄一郎君 (三十六)
 - 第三區 小島晴一君 (二十九)
 - 第四區 谷島高之助君 (三十一)
 - 第五區 廣岡久男君 (二十九)
 - 第六區 潮田定一郎君 (四十八)
 - 第七區 下條豊太君 (三十四)
 - 第八區 鈴木弘重君 (四十五)
 - ×第九區 萩原金一郎君 (三十四)
 - ×第十區 吉原才一郎君 (五十)
 - 第十一區 大久保重君 (四十五)
 - 第十二區 小島義三郎君 (四十八)
 - ×第十三區 篠崎豊君 (三十三)
 - 第十四區 白田元一郎君 (二十九)
 - 第十五區 日向卯三郎君 (五十四)
 - 第十六區 塙正三郎君 (三十四)
 - 第十七區 大島清五郎君 (六十四)
 - 第十八區 板橋傳市郎君 (二十一)
- 尙ほ表彰された鈴木氏に就ては前號に詳記したが、同家に傳はる家憲なるものを参考に紹介する。

勤 勉
家内皆明日の仕事の手配りは毎夜相談遂げておくべし
怠らず勉め勵めよ金銀のならぬ草木は世の中になし

節 儉
稼ぐともまつ儉約を守らずば必す貧のもとぬなるべし
思ひ見よ日に一錢の蓄へも二十五年に百圓となる



松原よ・頑張れ!

日本晴が近づきつつある

ハ……水戸を離れて、助川越えて(ヨイ／＼)
君を松原 ヤレコノサイサイ
君を松原、小松原。(ヨイシヨ)

記者の舊知西條八十君と友人江尻梢人君が合作の松原音頭の一齣である。

ひどい風の朝だ。高秋驛のガラス戸など滅茶々に壊れてゐる、君を待つなるその小松原は泥水に葉をひたしてゐる、これぢや東南風でなくとも気が揉める筈だ。

自治會館——戦禍にさいなまれた廢屋を見るやうな自治會館に行はれた協會の表彰傳達式に臨んで、それから松原町役場を訪ねたのだが、臨席の川崎課長が一段と聲を勵まして、「諸君は更に縣表彰を目ざして奮闘されたい」と言つたその訓示が、何か知らぬこの廢屋をも勵まし躍らせるやうに聞かれた

進取果斷の性に富み、就職してはじめて役場の簿冊に接するや、早くも統計の重要性を認め進んでこれに没入し、味ふ程に、噛みしむる程に、統計は決して無味乾燥なものであるまい、言ふに言はれぬ妙味があることを體得して、さうして調査員の指導訓練に従ひ、共々研究を積み、内容の改善をはかり、殊に縣令を以て各種統計の調査方法制定さるゝや、卒先これが實施に努め細密なる調査を行ひ、學事統計の如きも學校當局と連繫して簿冊の整理を遂げるなど、致々として倦まずどころか、いよ／＼益々精勵して優秀なる成績をあげ、今日松原が範を垂るゝにいたつたのも、大半は氏が努力の賜物といつてよからう。

有爲轉變は世の習ひ

さて、くどくしく申上ぐるまでもなく松原は、日立、助川が未だ單一の鑛山地帯たるに過ぎなかつた頃、彼の石炭景氣の華やかなりし時代には常磐沿線隨一の繁華な町であつた、朝に、夕べに絃歌の絶ゆることなき艶めく殷賑を、この町一つに集めてゐたのであつた。

處がどうだらう、一朝炭界の不振を來すや、炭鑛はピツタリ運轉が止る、あらゆる事業は閉塞する、町は忽ち油が切れて、世の諺をそのまゝ火が消えたやうにヒツソリしてしまつた。人の家と同じく傾きかけると仲々起きあがらぬもので、

外には風が唸つてゐる。居なめる多賀統計界の勇士の面々、何れも眞剣な面持ちで、式後の研究を續けてゐる。會館を出ると風は益々強い、ヒュー／＼砂塵を卷いて黄煙萬丈。かうしたひどい風の中へカメラを立て、役場に着く早々、宮田町長を中心に役場員全部の寫眞を撮つて、それからインターヴューだ。

さすが松原は聞えた町だけに役場も氣がきいてゐるし大きい。

町長宮田厚氏は縣會議員中錚々たる新人、しかも歴代町長中の大半は氏の一門から出てゐる、助役大高新一郎氏も亦名門の出で水戸中學出身の人材である。

統計主任沼田至之氏は、河原子の鈴木徹氏と共に先程統計協會から表彰された人だ、大正十四年三月同町書記を拜命、産業並に學事統計を擔任して今日に及んだが、頭腦頗る明晰

世直しといつたやうなつもりで、漸くものにした競馬場さへ經營難で擱はれてしまつた。

けれども松原よ、悲觀し給ふな、世の有爲轉變ほど計り知れぬものはない、高秋音頭の文句ぢやないが「願ひ叶うて八幡詣で、海も白帆の日本晴れ」——その日本晴れの日が、今松原に近づきつつあるのではないか。即ち素晴らしい人絹工場が、元の競馬場跡四十餘町歩の地を相して建設されるといふではないか、さうしてそこに千五百人の男女工が收容されるとする、これに附隨する人の動き、物資の集散、想像するだけに愉快なことである、願くば全町一致、周圍からよく助はりよく助けて、伸ばして行きたいものだ、そして松原をして、華やかなりし昔の松原に復さしめたいものである。

小字實に四百十二

此の地更に舊記に徴するに、人皇六十五代花山帝の御宇、藤原左京大夫が勅宣を奉じて山城國男山八幡宮の神影を移し奉つたといふ著名な八幡様がある、樹齡數百年を経たる老杉巨松鬱として天を摩す、又大字石瀧には猿塚長者の屋敷といふがある、赤海千軒、稻村千軒、松原千軒など古代繁昌の證左とするに足る、安良川には城址があり、稻村には坂上田村鷹が征夷の途次、松の根に腰をおろして一服やつたといふ遺跡もある天然記念物に前世紀の遺物と稱せられる玫瑰がある

縣統計界の實名

雪霽の三月三十一日午前十時
賀美村役場樓上に於いて

縣北賀美の座談會

モンペ姿で集つた調査員

深林中に風雅な徳川公の別荘

????????????????

さきに我等、多賀高原に權威者の有益なるお話を聞き、奥久慈染和田に模範的事績を繹ね、更に海よき、山よき松原の町勢に接し、今また福島縣の縣境近く、縣下統計界に王座を占むる久慈郡賀美村を訪ねて、熱烈なる統計關係者各位の名論卓説を拜聴するを得た。「光は東方より」にきまつてゐるがさては「統計は縣北から……」光つて来るか知ら?

仄聞するところによれば昭和三年三月統計調査法が改正され、翌四年から實施されることになると先づ第一に異論を唱へて反對の急先鋒をなしたのは珂北であつた。

る、負けずにやる、縣北の統計事務が今日嶄然拔んでゐるのも、蓋しこの反動から來た發奮による——國民性の現はれであるといつてよからう。

賀美村は北方、小里を隔て、福島縣に隣り西も東も山又山僅かに開けてゐるのは南方だけで、村の中央を流るゝ里川に沿つて太田迄五里十六町、自動車で一時間道のりである。面積は東西一里二十五町、南北二里十町、その大部分は國有林野で、民有地にありても總反別千五百八十二町八反歩の内

田	一四七町二反	畑	一五一町八反
宅地	三五町	山林	九九三町八反
原野	九三町	其他	一六二町

といふ様に、山林が最高峰を占めてゐる。戸數、人口は割合に尠く、現在戸數六百五十二戸、人口二千八百八十二人、しかも本籍人口は三千四百八十五人もあつてその内、他へ出てゐるものが千十二人、他から來てゐるものが四百九人からある是等外來者の多くは炭焼き、木挽、或ひは牧場に働く等のもので、本籍人口の三分の一も他出してるといふのは、耕地が少なかつたりする關係から、

青雲 の志を抱いて異郷に働くものもあるであらう、理想を追つて出稼する者もあるであらう、此の地出身の鴨志田眞十郎氏(舊姓北野)が本縣海外協會を主宰し、縣人の海外

「こんな面倒なことをやらせられると専任の書記を一人置かなければならない」

遂には町村長會の問題にまで發展して、面倒くさい統計なんだとオツ潰してしまへ、とか何とか力んだりした。

けれど、一面から觀れば左様に聲を大にして問題視する程どこか統計なるものに一脈の關心を持つてゐたのだ、無關心でほやくしてゐたわけではない。

だから、どうしても統計は放つておけない、やらなきゃならぬものだとすると、それこそ眞劍に、競争的に、うむとや

飛躍に貢献してゐるのも或ひはそれ等の關係によるか。

従つて人家は点々として散在する、耕地も同様。小學校は小菅、上深荻、折橋の三ヶ所にあるが、甚しいのになると、山を越え、谷を越え、片道三里、往復六里の難道を尋常一年から通ふ、疲れが來ると野に臥し、山に臥し、獨りぼつちで一夜を際涯なき深山に明かして歸ることすらあるといふ。

斯うした不便な地にあつて、統計といへば賀美、賀美といへば直ちに統計、統計あつての賀美であり、賀美あつての統計の誇りであるかのやうな、今日の地位を築きあげたのは何といつても、其人を得たからである、人の和を得たからである。

「統計は吾人の生命を支配す」統計は社會の明鏡なり」新しい標語ではないが、このモットーを最も古く、最も徹底的に、村民のあたまたに植ゑつけたのが賀美である。

今から何年前のことか、折角植ゑつけた「統計木」であつたが、あたら名もなき雑木雑草と同じやうに、ムザ／＼刈り取られようとしたことも幾度かあらう、枝をもがれ、芽をかゝれたことも度々あらう、これを矯め、彼れを扶けて生々化育、花も實もある今日の立派な木振りを見るまでにした統計關係者各位の努力は並大抵のものではない。

就中、統計主任書記助川國勝氏は大正七年十一月役場書記に就職以來、鋭意統計事務の向上發展に努め、或ひは關係法

規の改廢に注意し、書類の整理を怠らず、各種調査については、道といふ道もなき深山幽谷の間に至る迄、足を踏み入れて、具さに實況を視察し、精農家や古老を訪ねて意見を求むるなど、萬遺憾なきを期し、さうして得たるところの實際的知識、技能を基礎として、村内十五區の調査員諸君と春秋二期に意見の交換を行ひ、

衆智 を集めてよりよき方法を練る。調査員諸君も之に做うて最善を盡し、加之もこれを統ぶるに最も理解ある村長佐川忠氏がある、助役助川藤次郎氏がある、三拍子も四拍子も揃つて協睦一致、統計事務をば村の最大至高の事業として村全体の名譽を賭けての努力である。

佐川村長は銘酒「東魁」の醸造元。太田中學出の歩兵少尉で弓術の達人。眉目秀麗の好男子、漆黒のヒゲ顔の半ばを埋め儼として冑し難き風手ではあるが、三歳の童兒もなつく慈愛の相を具へ、畏れ多いことではあるが神武天皇と綽名される助川助役も亦助川主任を督勵して只管統計事務を佐けつゝある。

この努力、この精勵報らられて大正十五年の紀元節に先づ末松知事から主任助川國勝氏が表彰され、次いで昭和二年には伊東知事から第十三區調査員興野五三郎氏、昭和六年には半島知事から第十二區現調査員井坂光太郎氏の父、當時の調査員井坂龜之介氏、昭和九年には阿部知事から第十四區調査

員椎名治昭氏が何れも紀元の佳節に表彰され、賀美の名はますます輝き光つて行く。
三月三十一日、この光りを慕つて私共は午前九時半座談會々場賀美村役場を訪ねた。午前十時からといふのに十五區十五名の調査員諸君が何れもモンペイ姿で役場の爐ばたに私共を待つてゐた。

九時頃から降り出した雨は雪さへ交へてゐるのに此時間勵行といふより寧ろ時間厳守だ、茲迄調査員の訓練が行き届くと、村が明るくなるのも當然だと泌々考へさせられた。この一事を先づ披露して他の調査員諸君にも篤と考慮を願ふことにしたい。

尙ほ一つ附け加へておきたいのは、この日、日曜。數日來學年末で非常な多忙であつたにも拘はらず賀美小學校長江幡邦之介氏が特にこの座談會に列席され、一日調査員諸君と行を共にされたことである、理解ある村當局のもとにこの小學校長あり、斯くして統計——やゝもすれば當該關係者のみに限られたやうな統計がだん／＼社會的に認識され、融合されて行くことは誠に結構である。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

座談會

縣廳側 統計課成瀬屬、富岡囀託
村長佐川忠氏、助役助川藤次郎氏、統計主任助川國勝氏、賀美尋高小學校長江幡邦之介氏

統計調査員 (第一區より順位、括弧内年齢、○印は村議)

- 中野惣太郎氏(三八) 小林 魁介氏(五一) ○井上正壽氏(五一)
- 助川 萬司氏(五五) 中野常之介氏(四八) 中野 四郎氏(五四)
- 中島清一郎氏(四七) 北野新一郎氏(二八) 石川重太郎氏(三〇)
- 鴨志田子之吉氏(五九) 大金一彦氏(三七) 井坂光太郎氏(三六)
- 興野五三郎氏(四〇) ○椎名治昭氏(四七) 吉成喜一郎氏(四一)

出席者



【前列】中央佐川村長、その右、成瀬屬
【後列】右から江幡校長、次ぎが助川助
役、五人目興野調査員、其他は調査員

佐川村長

本日こゝに統計に關する座談會を開くことに相なりました處、御多忙の折柄にも拘はらず調査員諸君が全員、しかも定時に出席されましたことは誠に喜ばしい次第であります。何等の体験をも持たせん私が彼是れ申上げますのは甚だ烏滸ケ聞しい次第で

ありますが、本村賀美が統計模範村として何故縣下に名をなしたか、私はこれについて二三思ひついたらまゝを申上げてみたいと存じます。
第一、本村の統計は主任その者が二十有余年引き續き統計事務にたつさはり碎身粉骨その向上發展に努力されたの

と、調査員の方々も殆んど主任者と同様二十余年連続この事務に當られ、その間僅か一二の異動はありましたが、それとて親から子が引きついたといふやうに傳統的に統計事務を執られたといふことが今日のよい成績を擧ぐるに至つたのではありますまいか。

由來統計といふものは極めて地味な、そして對人關係にありますから随分仕事のやり憎いこともあつたと思はれます、やつていくうちに自然興味も持たれて來るのでせうが、僅かな手當にも不服なく献身的に努力されましたことは衷心より感謝いたします。

また、かういふ山村におきましては時間勵行といふやうなことは、なか／＼困難なものでありますのにキチンと勵行され、而かも御自分が勵行されるばかりでなく範を部内に垂れて、期日觀念を養うなど、たゆまず怠らず熱心にあつてゐた結果が今日の立派な成績をあけるに大いに力あつたことと思ひま

す。

本日は縣からも遠路わざわざ御出下さいましたのですから、皆さんの御体験なり御希望なりを腹藏なくお述べになられて、この座談會を最も意義あらしめたいと希望します。

それではこれから座談會に移りますが便宜縣廳の成瀬さんに座長をとめていたゞきたいと存じます。

成瀬(縣廳) お言葉に従ひ暫く座長の席を汚すことにいたします、私から申上ぐる迄もなく本村は皆さんの非常な御努力により遠い以前から統計事務の模範村となつてをりまして、他町村から視察にまゐりますものが大變多いやうに聞いてをります、經費の關係等から直接視察に來ることが出來ないで、遺憾に思つてをる町村も亦決して少なくないと思ふのであります、さういふ町村のために、皆さんが茲にお述べになられる御體驗なり、御希望なりを雜誌「茨城統計」に掲載して、視察に換へる

やう致したいと存じます、そのおつもりで皆さんの御經驗なされた實際を御腹藏なく吐露されまして、是等視察に來られぬ人達も、この雜誌を讀めば視察したと同様の効果を得られるやうにしたいと思ひます、

本村が誇る模範村として縣下に名をなしましたことは勿論調査員各位の御努力に負ふ處大なるものがありますが、唯調査員の努力のみでもいけない、理解ある村長を戴いてゐること、主任者の指導宜しきを得たこと、それに調査員の努力と、この三つの力の合體による結果だと思ひます、如何に村長に理解があつても主任者と調査員とがしつくり合つてゐなければ何もならぬ、主任者が材料も與へぬ、指導もせぬでは調査員は働かない、そちこちツツかけもちして何事も一致しない、それは決して能率はあるものでない、本村はこの三つがほんとによく、しつくり合つたが故に立派な成績があつた

のですから、この貴い三つの合體振りを他の不成績な町村にお示になつていたゞきたいのであります

では助川さんに指導方面の苦心談をお願いいたします。

我が國統計の濫觴

助川(主任書記) 只今佐川村長殿並に成瀬屬殿からいろ／＼私に關しお褒めのお言葉をいたゞきましたが、私は法規上大過なく携はつただけに過ぎません我が賀美村が優秀な成績を示すにいたつた原因を申しますならば、それは縣の方々や郡の小祝さん等の御指導の賜物が、調査員の方に好結果を齎らして久慈郡が他に比して優良になつたといふだけで我々の貢献ではありませんさて是れから座長のお言葉によりまして今日迄の調査事項、指導方法等をおいつまんでお話をいたします。

統計といふことにつきましては、是迄研究會等で屢々お話に出るのでありま

すが、我國では何時頃から統計が始まつたかといふやうなことも調査員の御参考になると存じますので先づその起源からお話してみたいと思ひます。

これはある書物によつて調べたのであります、我國の統計は近頃始まつたものではなく非常に古い歴史をもつてをります、即ち濫觴とも申しますものは人皇十代崇神天皇即位十二年に人民を調査されたといふことです、次いで三十三代推古天皇の御代、聖德太子が攝政におはす時、人民を調査されて民五百萬と稱せられ憲法十七條を御制定になられ上下和睦の徳を教へ給ひ、國利民福の増進をはかられた、三十六代孝德天皇は國に國司、郡に郡司をおき戸口を調べて戸籍を作り、男女六歳に達すれば男は田二段、女は其三分の二を給し、六年毎にこの調べを繰り返した、これ即ち班田收授の法である、戸口を精密に調べたことは今日の國勢調査に等しく、檢地は今日の地目調査で

ある、三十八代天智天皇の御代に一層正確なる戸口の調査を行ひ最も完備せる戸籍を作り、これを庚午の年籍と稱し永く朝廷の參考に資し、文武天皇の延暦七年に及んだといはれてゐます、その後豊太閤が朝鮮に兵を起さんとした時、石田三成に命じて全國の人口を調査し、檢田檢地を密にし、國內の田畑の數を明かにした、文祿檢地、太閤檢地などいはれたものであります、徳川時代にも同様調査を進められたやうであります、斯くの如く我國の統計は随分古くから必要を認められ、また不完全ながらも實施されて來たもので文化の進展著るしき現代にありて如何に統計が重要性を有つかは私が申上ぐる迄もありません、更に一層現在以上に統計は矢筈しくなつてくるに違ひありません、こゝに思ひを出して調査員各位は一段と正確を期せられたい。

統計は社會の寫眞

次に本村の統計事務に就て申上げます
が、従来の事務は御承知の通り大体が
土地臺帳の反別で調査されたことと思
ふ、即ち今年は去年よりいくらか作柄
がいよといへば、臺帳を見て去年が十
俵だから今年は一割増の十一俵にしよ
うといったやうに、多くは机の上で作
製されたものである、よしんば耕圃主
にたつねてみても是亦いゝ按配のこと
しかいはない、結局どこ運行つても、
いゝ按配に終つてしまつた、

けれども統計なるものは社會の一つの
寫眞である、寫眞は物体をその儘形に
現はすものであるが、統計は社會のあ
らゆる物象を數字に現はしてそしてそ
の村の計畫を樹て、その郡、その國の
計畫を樹てる、故にその數字に少しで
も狂ひがあつたりすると、恰もピント
の合はない寫眞のやうに何にもならぬ
丁度これと同じことであるから我々は
より一層完全な調査を遂げて焦点の合
つた鮮明な寫眞を得ることにとめぬ

ばなりません、本村なども最初は調査
員の訓練に相當苦心もしましたが、統
計なるものは調査員の報告がなければ
出来るものでないといふことを調査員
のあたりに浸み込ませる、一方年數回
調査員會議を開いて互に意見の交換を
行ひ、かうすべきものだ、あゝしたが
よいとお互ひがほんたうに納得して、
之が自分の務めだ、責任だといふこと
がハッキリして來ると、もうしめたも
のだ、この意氣込みが本村の統計をし
て今日あらしめた最大原因であると思
ひます。

手を抜きたくも抜けぬ

助川(萬) 今お話の通り最初は随分苦心
もする、幾多の困難にも遭遇しました
が、お蔭で今日の如く模範とか何とか
申されて來ますと手を抜きたくも抜け
なくなり、怠けろといはれても怠
けることなんか出來ません。

小林 全くかうなつて來ると頑張れる丈
け頑張つて、負けずに競争的にやるの
ですナ。

大金 萬一手ぬかつて日が遅れたりする
と助川主任さんから表を出されたりす
るから全く赤面しますよ、何をおいて
も統計だけは完全にやりにやならんと
ワシ共はきめてゐます。

佐川(村長) 皆さんの御熱心には衷心感
謝の外ありません、今日贏ち得たる此
名譽は永久に失ひたくありませんね。

成瀬(縣屬) 本村で米麥調査を正確にや
つたのは何年頃からでしたね。

助川(主任) 大正十年と思ひますが……
井上 それ以前に連記式でやつたと思ひ
ます。

助川(主任) その後小票を使つたのです
が、對人調査は税金關係など考慮して
少いかと思つたら、村の人にもよく判
つて來て年々殖えて來たやうです。

成瀬(縣屬) 米の農家の申告は正確に出
ますか。

助川(主任) サアその申告調査はどうも

……

井上 私は同僚といろく研究をしまし
たり篤農家の意見を聴いたりして何と
かして申告調査を正確なものにさした
いと考へ大正十四年に「數に現はれた
賀美」數より見たる賀美」といつたや
うなパンフレットを作つて配つたりし
ましたが、こちらで働きをかければ先
方も自然にわかつてくるやうです。

助川(萬) こちらから持ちかけることは
いゝやうです、只困るのは收穫高が多
いと税金にでも關係するかに考へてる
者があることです。

中野、中島 今日そんな取越苦勞をする
ものなど絶対にありません。

井坂 調査員が行くと今度は何の調査で
すかといつてくれるやうになりました
が、かうしてくれるとお互ひに時間の
經濟もとれますし、結構なことです。

小林 我々が行つて匿し立てられるのも
困りますが女房達になるとウチでは何

俵とれましたとか、收穫を誇張して自
慢たつぷりにいつてくれるものがある
こんなのも餘程氣をつけぬとアブない
です、隣りで聞くのがいゝやうですな
助川(助役) 米の收穫については標準を
とつてゐるのですか。

助川(主任) 下調査用紙があつて下調べ
は出來てゐます。

成瀬(縣屬) 坪刈について御意見はあり
ませんか。

興野 坪刈によるとどうしても一割五分
乃至二割位多くなるやうです、第一そ
の見方がなかくドいし、しますか
ら私共は参考にはしてゐません。

助川(主任) 坪刈はその場所によつても
非常な狂ひが生じますから選定に困難
です、作柄の中庸を見出すことが骨だ
成瀬(縣屬) 坪刈が餘計に出ることは定
則のやうになつてますが、坪刈の選定
箇所もいゝ所だと大變殖えるやうです

佐川(村長) 一ヶ所だけでなく二三ヶ所刈つ
てみると大体間違ひない標準を得られ

ませう。

助川(主任) 一番いゝ方法としては一筆
の田が五枚に仕切つてあれば、その一
枚から二十株位つゝ直線に刈つてみる
ことです。

佐川(村長) 今のやうに直線に、長く刈
つてみるのはいゝ事です。

天龍院の獵物的物語

助川(主任) 明治初年天龍院——馬の放
牧場になつてるところですが、十七八
町の處臺帳には牧場とばかりで耕地は
一つもないことになつてゐました、統
計調査法の改正當時から第一區受持の
中野さんが大いに努力されました臺帳
も直すし、圖面も作つたりしました、
實に偉い仕事でした。

中野(惣) 今日この調査によりますと森林
八百町歩もあるのですから命がけの仕
事です、一山越して、そこに二三戸一
部落をなしてゐる、二山越して五六戸

が一部落をなしてゐるといふやうに、八百町歩の中に僅かに二十六戸ばかりが点々として生計を営んでゐるので、耕地もその部落々々によつて、そちらの山裾に一筆、こちらの山かけに二筆といったやうな具合です。最初圖面を作る迄は、どこに道があるのやら、どこに人家があるのやら薩張りわかない、道だと思つて進んで行くと何時の間にか深林に踏み迷つてゐる、突然横合ひから放牧の馬メなど飛び出したり随分氣味の悪い思ひをしました。

助川(主任) 圖面をお持ちになりましたか。
中野(惣) 持つて來ました——
 とて極めて精密な圖面をくり廣げた、中に小川あり、風流な橋も架けてある、ちよろ／＼と小さな瀧も落ちてゐる、さてはこの深林の中に公園でもあるのかと獵奇的な興味もそられて中野調査員の説明を待つた。

中野(惣) この山林は廣畑、八犬石、苗はへ／＼に疲れて、途中山の中に一眠りして歸るさうだが、さうして眠つてゐる處へ放牧の馬が飛んで來て蹴飛ばされることなど屢々あるさうです。ですから家の人は子供が學校へ出て行くこと無事では歸らぬもの、出たら戰場といつたやうな氣持ちで途中で寢廻して遅くならうが更に心配せぬらしい。

中野(四) 山に慣れてゐるせいもあるが、山の子供は一体に頑丈だ、あの山の中を平氣で押し歩くんだから……
成瀬(縣屬) 林産の伐採はどういふ方法で調査しますか。
井上 山出し、した人に聞くと大体わかります。

成瀬(縣屬) 伐採面積は……
井上 行つて調査するより外ありません
小林 山の調査は足まめでなきや駄目です、奥山のことですから、どこで炭を焼いてるか、木を伐つてゐるか、足まめに調査しなきやわかるものぢやありません。

ノ平、天龍院の四つの小字に分れてをります、圖面の中に公園のやうな處のあるのは徳川さんの別荘です、このあたり一帯先年徳川家で拂下けて一手に所有してゐるのです、別荘のある所は天龍院と申しまして今の團順公様なども、夏になると時折りお忍びでお見えになられるさうで、お出でになると前の小川で釣をしたり、椎茸採りをしてゐるさうです。

助川(萬) 徳川さんでは昔から天龍院の所だけは持つてゐたやうです、その縁故で拂下けたのでせうが、當時拂下の値段は一段歩七十錢だつたさうです、しかも臺帳面からみると面積が五六倍も増してゐたのですから反當り二三十錢にしかついでゐないでせう、金のあの方にやかなひませぬね。

生椎茸の天ぶらで……

佐川(村長) 天龍院では盛んに椎茸の栽培をやつてゐます、徳川家の自家用にするとか言つて東京へ送つてしまひますが別荘では椎茸の天ぶらがよく作られるさうです、

成瀬(縣屬) 馬も出るので、放牧されるからいゝのですが、これが出來ぬとなると困ります。
助川(主任) 統計の趣旨の普及について皆さんの御苦心談でもお聞かせ願ひませうか。
興野 折角の機會ですから匿さすぶらまけて下さい。
助川(助役) 趣旨の普及には随分苦心した経験もありませう。
佐川(村長) あるにはありませうが仲々言ひ現はせないでせう。

成瀬(縣屬) 馬も出るので、放牧されるからいゝのですが、これが出來ぬとなると困ります。
助川(主任) 統計の趣旨の普及について皆さんの御苦心談でもお聞かせ願ひませうか。
興野 折角の機會ですから匿さすぶらまけて下さい。
助川(助役) 趣旨の普及には随分苦心した経験もありませう。
佐川(村長) あるにはありませうが仲々言ひ現はせないでせう。

秋蠶報告と手帖

培をやつてゐます、徳川家の自家用にするとか言つて東京へ送つてしまひますが別荘では椎茸の天ぶらがよく作られるさうです、

成瀬(縣屬) 徳川さんではその深林をどうしてゐるのです。
中野(惣) 一部は今も放牧場になつてゐる三百五六十の馬がをりませう、その他は炭焼きをやらしてゐます。
中島 この山林中の子供等は折橋の學校迄通ふのだが、所によると片道三里——それも道らしい道でもない所謂いばらの山道を、往復六里も歩くのだが雪が降らうが風が吹かうが一向平氣で暗いうちに出てランブがついてから歸つて來る、一年や二年の子供は歸りに

椎名 私共は縣からの御指揮には何なりと責任の重きを感じて期日に間違ひなく、而かも正確を期してをりますが、秋蠶の實收高報告だけには責任を果せばウソを言はねばならぬやうになるし弱つてをります、この邊の秋蠶は他に比べると非常に遅れてゐますから縣が指定の報告期限には實收は終りませんしかし報告しないわけにもいきませんから結局推定といふことになつて心苦くてなりません、何とか便法がないものでせうか。

佐川(村長) 全くこの邊の養蠶は遅れるのですから正確なものといへば報告期を延ばすより外ない。
椎名 一定した調査員手帳といつたやうなものがある、そしてそれに報告期限等も明示しておかれたら大變便利と思ひます、ノートを懐ろにして田畑へ行くといふ譯にはまるらぬが手頃な手帳なら始終からだへ付けてゐて、思ひつきの度びに記入が出來ていゝと思ひ

成瀬(縣屬) 馬も出るので、放牧されるからいゝのですが、これが出來ぬとなると困ります。
助川(主任) 統計の趣旨の普及について皆さんの御苦心談でもお聞かせ願ひませうか。
興野 折角の機會ですから匿さすぶらまけて下さい。
助川(助役) 趣旨の普及には随分苦心した経験もありませう。
佐川(村長) あるにはありませうが仲々言ひ現はせないでせう。

ます。

成瀬(縣屬) 統計協會で作つて各調査員に配ることになつてゐますが、手帳にはどんなものを載せるがいゝでせうか
椎名 前申したやうに記入欄を設けまして常に思ひつゝいたまゝを記しておき、手帳によつて報告用紙へ記入するといふやうになれば結構ですな。

吉成 我々はそこへ出る用事も普通の人に比べると多いので、時々気がつくことがあるのですが其都度記入しておいたら大そうよからうと思ふ。

助川(主任) 調査時期を入れることゝ各種類の標準も入れて貰ひたい、それから豌豆は生の何貫目は生熟の何貫に該當するとか、茶や桑は幾株あれば一歩だとかいふやうな計數表なども必要かと思ひます、規則や様式は必要ありません。

成瀬(縣屬) 豚などは育つたものだけの調査しかしない向きがあります、生産と繁殖と双方をあげなければならぬのは絶対に出来ませんよ。

成瀬(縣屬) それもこれも救済縣にはいりたといふ熱意から出たものでせうから……縣によつては手加減があつたかも知れませんが、近頃在米高が殖えたのも被害を過大に見積つたせいじゃないのでせうか。

助川(主任) とれぬ〜といつたところで我々の統計によらば實際の數字はわからない。
中島 それが統計の本質で、是ればかりは如何な政治家でも覆へすことは出来ません。

成瀬(縣屬) 會議とか集りなどの際は時間には勵行されますか。
椎名 時間前に必ず集ります。

佐川(村長) けふなども午前十時開會といふのに九時半には全部揃つてゐました、これを凡てに應用し村全体に及ぼしたいと思ひます、調査員諸君が職務に熱心に、精神的なことには衷心より感謝します。

を仔豚に就ては餘り關心を持たぬ傾きがあるやうです。

中島 家禽の調査は小學校の兒童にやらしてゐますが、子供は正直だから言はれるとスグその日のうちにも調べてくる、不在とか何とかいふと遠慮なく何度でも押かけて行つてよく調べてくるあれは子供に限る。

成瀬(縣屬) 現在でも小學校の兒童にやらせてゐますか。
中島 やらせてをります、子供は喜んでよくやつてくれます。

佐川(村長) 子供にはウソを言へぬからいゝですな。

政治的問題は御免

中島 米の豫想は目にふれたところを報告するのだが、これを政治的に問題にされたりすると折角の調査員の努力が覆へされる、如何に調査員だつて先きの天候まではわかりませんが今

成瀬(縣屬) 調査には全部で何日位かかりますか。
椎名 何日と、延べ日數にしますと相當なものになりませうが小票記入などは大抵夜ナベにやつてますから……

大金 私の受持は二十八町六反歩で、それが山間に六百五十筆ばかりになつてゐます、野外の實地調査だけに朝早くから出て三日間かゝりますが、その前後がまた大變です。
井坂 宅地附近の調査は困難ですね、色々なものを何回にも作られるのですから……一々その都度調べておかねばなりません。

統計普及の活動寫眞

吉成 普及のために統計の大切なことを簡単に現はしたものはないでせうか、統計に關した活動寫眞はないでせうか
佐川(村長) 活動寫眞を協會あたりで作つていたといつて巡回してくれると大變

日不良と思つたのも天候の工合で後に素晴しく良くなるかも知れぬし、今迄申分なかつたものも一朝にして天候に禍ひされることが間々あるのですからどうしたつて天候には勝てない、それをサモ〜調査員がダラシないやうにははれるのだから癪にさわる。

吉成 氣候の變化から生じた結果迄われ〜に責任を持たせるのは無理だ、いつかの縣會のやうに……

成瀬(縣屬) 一般がかうだと豫想したものが其後の天候で思はぬ變化をみるのだから仕方がない、豫想の時に、今年は是れから先き雨が何日續くとか、又早天がつゝとか、わかつてゐないのだから止むを得ません、それとて大した違ひぢやなかつたやうですが。

井上 人が悪いのぢやない、天候がわるいのです。

助川(主任) 私の方のは豫想と實收と四分四厘しか違ひませんでした、豫想に手加減をするとか實際にはそんなこと

結構ですが――

中野(常) たゞ話だけぢや仲々集りませんが、活動寫眞ならキツト集ります、殊に本村の如き山間の地では珍らしいから幾らでも集ります。

佐川(村長) 講演會もいゝでせうが、その際活動寫眞とか浪花節とか――時期にもよるが催し物があるとキツトいゝと思ふ。

助川(主任) さうしてウムと宣傳をしたり我々から刺戟を與へたりして農家がメイ〜にその日〜を記帳する迄にならねば駄目です、今の處その日の出入を記帳するのは數へるほとしかない、そこ迄進ませたい。

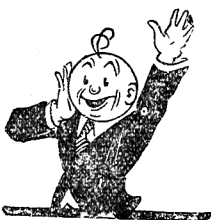
吉成 將來さうなりません、今迄のやうなやり方では農家は立つて行けませんもの。

佐川(村長) どうしてもさうさせねばならぬ、今の農民には生産だけで消費に ついてのあたまが少しもない。
成瀬(縣屬) 本村では統計費の豫算はど

れ位とつてあります。

佐川(村長) 本年四百八十圓とりました
調査員の中に村會議員が三人もをられ
ますから、何かに便宜です。

それでは本日はこの程度に止めておき
たいと思ひます、皆さんの貴い御體驗
やら御意見やら承りまして將來相當參
考になることが多々あつたらうと存じ
ます、のみならず本日のこの座談會の
記事が雑誌「茨城統計」に掲載され縣下
の調査員の參考にもなることに相成り
ますれば誠に仕合せと存じます、是れ
を以て閉會の挨拶と致します。



統計の普及と「數」の觀念に就いて

眞壁郡關本町長

池田

穰

統計の基礎が「數」である以上、これが普及發達には吾々國民の間に「數」の觀念を養はねばならぬと思ふ。處が吾々は日常の生活の上に於て案外この觀念に對し冷淡であり無頓着であることが多い。俗に「打算的」と云ふ言葉があるが、多くの場合それは物事に執着する所謂功利的な人々を批判冷笑するに用ゐられ、その反對に「淡泊である」と云ふことは物事に高潔なるを意味するもので、多くの人々の禮讚する處である。然しこれを一面から見れば前者は精確緻密の素質を含み、後者は單純にして粗雑なる傾向を帯ぶるもので「數」の觀念に乏しい日本人の通弊であるとも考へられる。だから各種の統計に於ても、苦心の結果表示せられたる數字に對し、甲は多くの關心を持ち、乙は至つて無關心の場合が生ずることになるのである。縣下町村の人々が統計に理解を持つ様になつた今日でも、尙各自の町村の戸口や、重要産物の數量さへ、仲々正確に記憶する者は稀れであり、況んや夫等の比較對照等に

優良村を訪ねて

(沼里村調査員)



「茨城統計」生れてまだ幾何にもならないが、誌上に躍る各地調査員の活動や、模範町村の實況は、縣下四千の調査員諸君に大きな刺戟を與へ、優良町村を訪ねて見學視察する向きが頗る多くなつたが、稻敷郡沼里村では四月十七日、書記酒井茂助氏外調査員七名が自動車を驅つて早朝出發、縣下に優秀を誇る那珂郡佐野村の統計事務を視察し、それから縣廳を訪問、川崎統計課長小林縣屬等と歡談を交へ記念撮影して歸村した、寫眞は視察員の一、行で中央は川崎課長、その右の洋服は小林屬

至つては望むべくもあらぬ状態である。相當の知識階級にある人々さへ數的觀念に乏しい爲めに、統計上の數字に對しても信を置かね事になるのである。これだから統計が單なる役場や縣、國の事務ばかりでなく、國民生活上非常に重要性のあることを認識せしむるには、どうしても國民全般に「數の觀念」を一層助長せしむるの必要があり、統計を普及すべき重点を此處に置かねばならないと信ずるのである。

○ 勿論現在小學校教育より上級の學校に至る迄、數理的教科は最も重要視せられつゝあるけれども、それは單なる初等より高等に至る數學教科書の教育で、國民大衆に必要な實際的「數」の觀念に對する指導に就いては全きを得ない感がある即ち定理方式を教ふること以外に「生きたる數の觀念」を興ふることに留意して欲しいのである。例へば町村小學校に於て教職員自らが先づ郷土の統計的觀察を怠らず、町村の實狀を

興味的に兒童に表示するならば、必ずや「數の觀念」を常識的に養成し得べきを信するのである。たゞに郷土の事物に留まらず、日常の生活を、統計的の數字化に依り、比較對照して指導することは頗る効果あるべきを思ふのである。本縣の統計協會に於ても現在の調査機關の指導獎勵と共に、少くとも

縣下の小學校、公民學校を通じ、統計に於ける「數」の觀念の涵養に就き相當の考慮を拂ふの必要を認むるものである。然して本縣下兒童、青年の心にこの觀念の全き時、統計の使命は普及徹底せられ、國民生活と統計の密接なる關係を遍からしめ得べきを確信せらるゝのである。(二〇、三一、三二)

統計宣傳の歌

行方郡手賀村調査員 高塚 茂 十

一ツトヤ 人々學べ統計を
統計は御國の基礎なるぞ
二ツトヤ 二親様は大切に
統計調査も大切に
三ツトヤ 皆さん一同協力し
正しき申告致しませう
四ツトヤ 世の中益々複雑に
國家は益々多事多難

五ツトヤ 何時も舊慣墨守して
時代の進歩に後るなよ
六ツトヤ 村から村へと宣傳し
あらぬ誤解を解きませう
七ツトヤ 難行苦行は身の修業
統計調査は國の爲め
八ツトヤ 止まらず擔まじ勉めなば
何時かは春の花咲かん
九ツトヤ 是れぞ御國の御奉公
家をも身をも何のその
十ツトヤ とどのつまりは皆統計
國策遂行の基るぢやぞ



表彰の光榮に浴して

胸を衝いて迸る感激の言葉

圓滿な我が村の調査員

東茨城郡下 大野村書記 平戸 清 二

今回私が本縣統計協會より表彰せられました事は身に餘る光榮であります。内に之を省みる時、冷汗三斗、實に愧入る次第であります。もし下大野村の統計事務が割合に良く出来てゐるとしたなら、それは一に調査員諸君の努力に外ならないのであります。で此際私は我が村の調査員の活動状況を述べて御参考に供したいと存じます。

下大野村は田約四二〇町、畑約三二〇町、戸數五七〇を有しこれを六人の調査員にお願いして置きますが、一區平均田七〇町、畑五三町に達し、他町村に比し極て廣汎な調査區を受持つて居る譯で、その勞苦も一通りではないのであります。従來の調査員は御多分に漏れず何れも區長とか其の他の有志(多くは老年)にお願いして置きましたが、小票式調査になつて

から事情を述べて全部眞面目な青年に囑託することにし老年の方は辭めて頂きました。

それから打合であります。原簿の照合、小票の作成、集計收穫高の決定等、殆ど毎月會合を催します。算盤の如きも二人一組となつて進行して行きますので比較的誤算も少いのであります。割合に興味の少い事務でありますので稍もすると倦怠を生じ易いのであります。會合の終りには學校や農會方面と聯絡して座談會を開きます。時に夜に入る事もありますが何れも熱心に粗末な茶菓を喫し、次の會合を約し談笑裡に歸つて行きます。時々各自々慢の漬物や果實等を持參して共に味覺し、その圓滿ぶりは他の會合では見られません。かゝる状況でありますので、もし何等かの都合で會合が遅れる様な場合は却つて調査員より請求される様な有様で殆ど缺席者を出した事がありません。調査員の和合——これが今日の榮譽を興へて呉れたものです。只最近まで最も熱心に活動されました立原二郎、庄司敬一郎の兩君が相次で幽明境を異

にし今日の悦びをお分ち出来ない事を非常に残念に思つてる次第であります。

體驗を語りて恩師に報ゆ

眞壁郡
關本町書記

横塚良助

去る二月紀元の佳日、常の通り出勤時間に登應しますと既に町長は登應して居たのであつた。朝の挨拶をしますと「君今日は御目出度」と述べられて私は何の事か察し難く「町長さん何ですか」と問ひますと、町長はいはらき新聞を手に取り「君茲に協會から表彰されると發表してあるよ」との新聞を差出されたのである。其時私は全く感慨無量であつた。只「有難う御座います」と答へて我机に向て感泣するのみであつた。一體意外のこの光榮！斯く如き榮譽を受けらるべく、其種子を何方が播いて下れたか、植ゑし下れたか、深く心を打たれたのである。思ひ起せば現町長の亡父、大正二年より七ヶ年専心我町の町勢を革新せられた元町長池田序介翁ではないか。私は其當時青年時代であつて時々會合に教訓を與へられて、非常に感激したことがあつた。現在の世の總ての施設向進は何事に於ても嚴正なる統計がなければ決して計畫を樹立し得られないものである。今後の青年は常に其思想を保

持し、凡ての事業に當て統計的嚴正なる精神の下に勉めなければ到底充實したる仕事は出来得ないものであるといはれたのを今も記憶してゐる。私はこの一言に非常に感激しまして我が家の生計を顧みしました。なるほど一家に於ても然りだ、町に於ても尙然りだ、ひいては縣國に於ても道理に二重はなきものだと思ひ入つたのであつた。

其の後大正十年、農業調査が施行せられた時、私も一調査員に任命された。時こそ到れり、かねて教訓を與へられて居た其實をあけねばならないと思つて、一心に勉めたのであつた。幸ひにして恙く事務を全ふし得ることが出来たのである。その時から農林統計調査員を囑託せられ昭和五年に至るまで一調査員として調査の事務に當るのみであつたが、同年七月、當役場に欠員を生じ廻り合せか、其の職が統計擔任であつた。時に現町長より一通の書信に接し拜讀すれば君は常に統計調査員として非常に趣味を以て居られるが今役場に統計擔任者が欠員になつてから家事の都合で出掛けては如何か」と記してあつた。さうして私は早速其職に當ることになつた。時を重ねて事務を取つてみると、其當時は調査員として老いの身もあり、調査上に多少差支を覺えるので現町長に計り、調査員の多數を農業教育の修了者或ひは青年にして中堅なるものを選び更迭して現在となつたのである。現在では過半数は中堅青年であつて、最近に於ては如何な

る調査にも支障なく、不信ある報告書の如きは見られなくなつて來た。昭和九年に於て、我が町が經濟更生の指定町となつた。時こそ來た、此際統計の眞價を現さなければならぬまいと、研究協調し、基本調査に當つた調査員の各位が熱心に調査蒐集した結果表を以て出来上つた基本調査は一つも抜目のない、確たる基本が現れたのでこれを更生委員に配布して計畫の樹立が出来たのである。かくして自然に町一般から益々信頼を受くるに至つた。以上は私の經驗の一部を記したに過ぎないが、かうして縣より表彰の恩恵に浴しては益々責任大なるを感ぜざるを得ないのである。今後は尙一層研究協調を重ねて事務の完璧を期すると同時に、亡き恩人の御教訓の一に報りたいと誓つてやまないものである。喜びのあまり誌上をかりて所感の一端を述べゆゑんである。

責任の重大性

多賀郡松原
町統計主任

沼田至之

統計の重要性を熟知し之に刷新改善を施し統計作業の完璧を期すべく銳意力行しつゝある秋、之に拍車を懸くべき功績者の表彰は寔に結構なる御措置と思ひいたします。

今般不圖も推薦を受けまして縣統計協會總裁閣下より統計

事務功勞者として表彰せられ三月二十五日郡自治會館に於て協會副會長より傳達式を舉行せられ、表彰狀授與の恩典に浴しまして寔に感激に堪へざる次第であります。單に規則、指示に従ひ努力し善き統計完成へと思策實行しつゝあるに過ぎざるに、茲に端なくも表彰者の一員に加へられたと云ふことは實に意外の感に堪へません。惟ふに吾々の責任たるや彌が上にも加重されました、今後益々奮起、成績の向上を計り統計の完璧を期せざるべからずと念じて居ります。

無量の感激

鹿島郡若松
村統計主任

菅野藤助

私は大正九年六月一日日本村書記に就任以來統計主任として唯單に縣の御指示を其の務として果したに過ぎませんのに、功績顯著の故を以て本縣統計協會より表彰の光榮に浴し只々涙あるばかりです。私如きが表彰狀授與の恩典に浴する事の出来ましたのは是れ一に本郡御擔當の主任の方並に本村長の御指導御鞭撻の賜であると深く信するのであります、且又各調査員が一致協力して統計の重大なる任務を完ふし、正確なる資料を蒐集下された結果に外ならぬと思ふのであります。

社會百般の施設計畫は悉く基礎的資料を統計に求めねばならぬと存じます、故に正確なる調査と報告期限の確守勵行とは言を俟たざる所でありまして、殊に農林統計は深刻なる不況に悩みつゝある農村救済の根本となるべきものなれば、一層責任を自覺し國家有用の資料の作製に努め、此の期に際し一段と協力一致此の道の爲めに奮勵努力を誓ひ以て茨城縣統計の萬全を期したいと考へて居ります。つたなき感激想を述べて茲に擱筆いたします。

偽らざる感懐

那珂郡瓜連町囃記

龍崎由之介

今春紀元の佳節に當り統計事務功績者として、表彰の榮を擔へたるは、省みて聊か忸怩たるを得ないのであります。

近來我が國の産業組織は非常に、複雑多岐となり、適切な産業經濟策を要求するの聲益々多きを加へつゝある時最も正確にして詳細なる統計資料の存在は、國家將來の消長に及ぼす處又實に大なるものある事を痛感するものであります。

我々町村の統計實務者は主として、吾人の生活に直接關係を有する、産業統計の資料蒐集に當るものであつて、其の責務は國家的にも頗る重要なものとなるのである。故に我々

は常に最も正確なる統計を、最も迅速に、且つ簡便なる方法を以て得る事に腐心して居るものであるが、さて實際には我々の期待は常に理想と化し、満足するに足る成績を收め得ざる事を遺憾に思つて居る次第であります。

資料蒐集に當り、其の最も障礙と認むべきは、一般人の統計思想の缺如せる点であると思ふ。我々が如何に熱心に實務に當つても、一般人にして統計の何ものたるかを理解する處がなければ、調査實務者は非常なる困難を來すものであつて其の勞は實に多大なるものであるが、其の結果は統計の重大要件たる正確を缺き迅速を亂る事となるのであります。

我々は今後の統計施設の一として一般國民に對し、統計思想を普及徹底せしめられん事を希望するものであります。

更に役場事務としての統計に關しては從來同一種類の統計に對し、農林課、商工課と言うが如く各課に對し提出せし事等も往々にして、斯の如きは宜敷統一的に改善し、地方に於ける統計は總べて統計課所管となれば更に好結果を來すものと照料するものであります。

尙將來統計の改善を計る一助として、各種統計規則に對しては、適當の方法により一段の力を有するものたらしめたいと思考するものであります。

感激の裏に、偽らざる感懐を述べて皆様の御批判を仰ぎたいと思ひます。

私如きが……

眞壁郡古里村
統計主任書記

戸頃 晋

今回統計協會が縣下統計事務功績者を表彰するにあたり、如何なる効績がありましたか私は其の撰に加はるの光榮を得ました、私は村統計主任として明治三十五年四月より其の事務に當つてをります、けれども統計と云ふ複雑なる調査に私如き淺學不才の者では其の法規も理解し得ない程であるが平素統計課長殿を初め係員諸氏の御訓示と御指導を受け單に各調査員各位の御取次ぎをする位のもので、然るに昭和十年二月十一日の建國佳節に際し表彰の光榮に浴し四月十日を以て本郡統計研究會第二回總會を下妻町に開催せらるゝにあたり、其の傳達式典を擧げられ親しく表彰狀を授與せられましたに感懐に堪えぬ次第であります、我等は表彰式典に際し、總裁知事閣下の告辭、統計課長の訓示、貴賓の祝辭等其の意のある御辭を膽に銘じ有終の果を收むべく一層奮勵する覺悟であります。

感謝

眞壁郡
大寶村

横瀬 定平

茨城縣統計協會設立最初の効績表彰の選に入りました事は

誠に光榮とする所であります、私は農會其の他の事務をも兼ね居る關係上統計事務としても思ひながら遺憾の点なきを保し難く、毎々心痛に考へてゐた時、圖らずも表彰の光榮に浴し殊に知事閣下の告示、來賓諸賢の祝辭を辱ふし誠に感激に堪へざる次第でありまして、一層責任の重且つ大なる事を痛感致しました、今後は粉骨碎身其の任に當り以て御期待に背かざるやう努むるの決心であります。

誓て恩賞に報るん

久慈郡中里
村調査員

鈴木國一郎

私は一調査員として單に指示に従ひ其の務を果したるのみなるに、去る二月十一日建國佳節に當り統計協會より功績表彰の光榮を擔ひ、四月十五日日本郡自治會館に於て盛大なる傳達式を行はれ親しく表彰狀及記念品を授けらる、洵に感激に堪えざる次第であります。

統計は各般の施設計畫の基礎資料となるものであるから正確なる調査と報告期限の確守勵行は言を俟ざる所であります特に統計なるものは政治經濟は勿論諸外國會商等の最大必需なる資料となるものでありまして、今後時代の一層複雑多端となるにつれ、我等の責任は益々重大を加ふるのであります。

我等は更に研究協調して過ちならんことを期し、各關係官廳の適切なる更生施設の資料に供すると共に統計の意義目的を理解し、一般生産者に普及徹底せしめ、生産者の收支を明にし、未來の更生經營に運算なからしめ、延ては國家施設の正確なる指針たらしむる様努力しなければならぬと思ひます。以て榮えある恩賞の趣旨に背かざる様致したいと誓て止まざる次第であります。

永遠の記念

北相馬郡 篠崎 浩
文村書記

梅花綻び初むる紀元の佳節に本縣統計協會が事務功勞者として三十五名を表彰し、櫻花まさに芳香を發せんとする四月十一日これが傳達の盛典を本郡自治館にて舉行し不肖其の選に入り名譽なる表彰狀並記念品を拜受した事は身に余る光榮と深く感激に堪えざる次第であります。

惟ふに統計事務は國家社會の施設計畫の基礎的資料を提供するものにして、其の正否は國運の進展、國民の福祉に重大なる關係を有するものである事は今更申迄もありません、故に如何に統計事務の重大なる任務なるかと熟知さるゝのであります。

國難は未だ濟はれない、非常時は解消されない、私共は一層責任の重大なることを認識し我が統計事務の爲めに全力を捧げて有用なる資料の作成に邁進し、我統計界の爲めに特別の歴史を有する本郡統計事務向上の爲め、協力一致渾身の勇を揮つて努力奮闘、御高德に副ひたい考へてございます。

責任愈々重大

那珂郡野 西村勝太郎
口村書記

春風まだ肌寒き三月二十八日。建國の佳節にあたり縣統計協會より表彰されし私等の表彰狀傳達式を湊町役場樓上に於て行はれました。縣より川崎統計課長並に渡邊、高島兩屬臨席し、西野那珂郡町村長會長、宮本、岡崎の同副會長、其の他學事統計關係の各町村吏員、小學校長等列席のもとに川崎統計課長より表彰狀、渡邊縣屬より記念品を傳達されました事は、私等無上の光榮とするものであります。

顧みれば私等、統計事務には日向淺く且つ淺學非才にて何等みるべきものなきに、榮えある表彰に浴するとは、之れ偏へに川崎統計課長並に縣係員の熱心なる指導訓練と、調査員諸氏の熱心なる御援助の賜ものと深く感激に堪えません。

淺學非才なる私如きが今日の榮譽を擔ひましたことは、偏に縣當局各位の懇篤なる御指導と、村内各區調査員の御後援の賜と深く感謝する次第であります。
爾今益々研鑽努力、克く御訓諭の趣旨に従ひ村内調査員と圓滿提携、共同一致以て益々適確なる統計を作り此の榮譽を永く失墜せざる様念じて已まない次第であります。

榮譽の前に愧つ

行方郡八 鬼澤長四郎
代村書記

皇紀正に二千五百九十五年、梅薫る紀元の佳節、我が總裁閣下より圖らずも統計事務功績者として表彰の恩典に浴しましたことは、身に餘る光榮と存じ、感激措く能はざる處であります。

國威を發揚し國家國民の福祉を増進する根本策は、之れ皆統計が其の基礎となることは喋々を要しません、故に其の正否が國家の施設經營に重大なる關係を有すること亦多言を要しません、然るに斯の如く重要な統計の知識が甚だ幼稚であります、容易に完璧の域に達し得ないのは甚だ遺憾とし榮譽の前に愧ぢ高恩の下に感泣する次第でございます。經濟

協會總裁閣下の告辭の如く統計の使命たるや重且つ大、而して私共の其の責任の如何に重大であるかといふ事が、此の五尺の我が身にひし／＼と迫つて思はず知らず戰慄を覺えました。

今後、一村の統計は一郡の統計に、一郡の統計は一縣の統計に、一縣の統計は一國の統計なる如く、統計の光は正確の數より發するの通り、私等は粉骨碎身以て我が茨城統計をして一段と光輝あらしめるよう、奮進努力の覺悟であります。

身に餘る光榮

鹿島郡 木瀧徳三郎
高松村書記

二月十一日紀元節の佳辰を卜し小生統計事務功績者として本縣統計協會より表彰せられたるは誠に身に餘る光榮にして感激措く能はざる所なり、願れば大正十四年四月書記となり勸業事務を擔任し、農林商工統計事務主任を兼務せり時恰も統計事務規則の改正時に際會せり、就職日淺く未だ充分なる研究を遂ぐるの餘裕なく殊に淺學非才この重要性ある事務の遂行は初任者として頼る懸念する所なりき、加ふるに本村は十大字十三區にして十四調査區に亘り、十四人の調査員を設置せられ之れが統一に關し尠からず苦腦を重ねたり、抑も

統計事務は觀察の範圍廣汎に亘り調査の事項複雑多岐なるを以て執務に當りては苟も一時の偷安を求め當面を彌縫するが如きは最も戒むべきことの自覺を以てし、調査員會合の機會に於ては常に唯一の注意事項として之れが宣傳に努めたり、爾來繼續殆んど十年其間種々の曲折に遭遇し小生乏しきの身を以て研究と手腕なく理想の一半をも實現するを得ざりしが幸に本縣統計課の懇篤なる御指導と御援助の賜により大過なく辛ふじて今日あるを得たるは深く感謝する所なり、然るに不圖も今回破格の恩典を忝ふし一層重責を感ずる次第なり、依て之れを記念し統計の整備改善を期し今後益々奮勵努力以て一層調査員の指揮督勵に努め、之の重要性なる統計事務のため一段の向上發展を企圖し邁進するの覺悟を有するものなり、茲に表彰状拜受に當り滿腔の熱誠を以て感謝の意を表すると共に聊か小生の感想の一端を披瀝す。

余の覺悟

西茨城郡柴戸町
統計事務主任 川井 徳 義

二月十一日建國の佳節、私共縣下三十五名の統計主任が本縣協會總裁より勁績表彰の光榮に浴し、越えて三月十八日、特に不肖の爲に統計協會西茨城郡支部樓上に於て表彰状並に

記念品傳達式を舉行せられ會員多數列席の上統計課長殿より親しく之が授與の恩典に浴し、身に餘る光榮として感激措く能はざる次第である。

顧みるに私は昭和二年四月統計事務囑託として本町の統計事務主任となり、爾來本年二月迄滿八ヶ年、只々其の職責の重大なると、勤めても尙及ばざる務に對し、孜々として倦まざるの精神を以て一般産業統計に、農業調査に、國勢調査に地方馬匹一齊調査、米生産統計事務等々に執筆し、其の間調査員の指導訓練と調査の内容改善に聊か盡瘁したるに過ぎざるに今や此の恩命に浴せんとは……

惟ふに統計は、社會各般の事情を審かにし、總ての政策施設の指針を示すものにして其の正確なる基礎材料を提供する事は小にしては一町村一家庭の健全なる發達の基礎資料となり、町村趨勢の一般を容易に知悉し得べく、大にしては國策遂行の資源となる、故に其の成否は實に國運消長に至大の影響あるを思へば、私共は益々統計の重要性を認識して、研鑽練磨、愈々怠りなく調査員の善導誘掖に、又一般社會人に統計の普及徹底を計り、統計事務の確立に勇往邁進致すべきであると考へる、特に現時の非常時に際會し、一段と其の覺悟を必要とする次第である。

最後に我等は總裁閣下の式辭貴賓各位の祝辭を肝に銘し眷々服膺し今後一層自重して本事務達成の爲有終の美果を擧げを擔することになつた。

元來素養もなく、加ふるに鈍才、事務を執るに當つても只眞劍に行ひ就中統計事務の確否は國家經濟にも關するものなりと聞及び、殊に興味と興味を以て事に當つたのである、しかし唯それだけの私ゆる表彰されるなどは夢想だもしなかつた。今回の恩賞は實に意外中の意外である、他なし鈍才なりとも孜々としてつとめなば何時しかある域に達することを得るだらうと、私はそのみ臆に銘して忘れぬ覺悟である。

理解ある熱意

北相馬郡
菅生村書記 大瀧 寅 直

表彰の趣旨に背かざる様一段の努力を惜まざる考である。

梅薫る紀元の佳節に當り、統計協會より表彰の光榮に浴し感激に堪えない次第であります。統計は諸般の施設計畫の基礎資料であります、その正否によつて事業の遂行に重大なる影響を及ぼすことを要しません、故に我々は正しき統計を得ることに、最善の努力を拂はなければなりません、然し正しき統計を求むることはなか／＼容易でなく、要するに第一線に立つ調査員の熱意と理解ある一般民衆の協力とによつてはじめて正確なる統計が得られることと思ひます、私は常に調査員の指導と村民に對し統計の重要性を認識せしむることに意を用ひ、統計の刷新改善に今後一層努力する考であります、之が統計主任としての職責であり、また今次の表彰に報ゆるゆゑんであると信するのであります。

光榮に感激して

結城郡水海道町
農林統計調査員 堀 越 留 吉

此の度計らずも調査員として最大の名譽であります表彰の光榮に浴しまして感激に堪へない次第であります。

私は調査員として唯皆様の援助と指導とに依り、また町當局よりの指示に基き與へられた職務を天職と心得まして一意専心職責を勵みましたのみでありますのに拘らず、此の恩典に浴しまして結城郡統計研究會總會席上に於て表彰状を授與せられ汗顔の至りで御座います。

鈍才に鞭ちて

結城郡
名崎村書記 塚 原 龍 藏

今後は尙一段と統計調査に奮発すると共に此度賜りました
總裁閣下、統計課長殿よりのお言葉に副ひ、一方また本職に
よりにて意得したる智識を農村經濟更生にも活用し農家の福利

増進にも努力致す決心であります。
感激の余り一言御禮を兼ね光榮の御挨拶を申し上げます。

内閣統計局編纂 (昭和十年四月一日發行)

列國國勢要覽

ポケット用二百頁
定價 金十五錢
送料 金二錢

|| 萬人向きの好個の國際事情研究資料 ||

發行所 東京統計協會
東京市京橋區銀座西三丁目二五
發賣所 中央出版協會
東京市麴町區大手町二ノ二
申込所 茨城縣廳統計課
茨城縣水戸市北三ノ丸

統計調査員會狀況報告

稻敷郡安中村統計調査員會

- 一、開催月日 昭和十年三月二十五日
- 二、出席人員 十六名(定員十八名)
- 三、協議事項

- 1、春季調査方法ニ關スル件
- 2、統計事務優良町村視察ニ關スル件

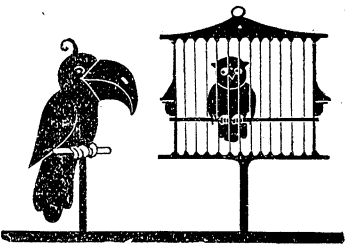
- 一、開催月日 昭和十年三月二十三日
- 二、出席人員 九名(定員九名)
- 三、協議事項(一)春季調査

- (イ)大小麥ノ作柄調査(田畑)(ロ)桑園ノ調査(ハ)茶種ノ調査(田畑)(ニ)馬鈴薯ノ調査(田畑)、其ノ他春季作物ノ調査
- (二)專蹟簿調製資料調査ノ件

- (イ)調査票ノ右側欄外ニ一筆毎耕作者氏名ヲ記入、(ロ)域内ノ職業別分類(用紙配付)(ハ)調査票ニヨリ耕地ノ廣狹分類
- (ニ)他町村地ノ耕作反別モ調査スルコト

河原子町統計主任

多賀郡河原子町統計主任は助役鈴木徹氏であつたが今回黒澤百男氏に更つた。



實務道場

統計調査の葉

[3]

☆……統計が進歩し統計が利用されることに

☆……よつてはしめて完全なる國策は生れる

の点に注意し耕地圖及作付反別の加除を嚴にし調査上遺憾なきを期せられたる。

- 二、本季作物並果實の種類及調査期間、報告期限に關する件

本季作物の種類及調査期間、報告期限は大体左の通りでありますが、本季の作物は播種又は植付してから收穫迄の期間即ち作付期間甚だ短くして特に注意をしなければ調査不能となるものがありますから調査期に就ては遺憾なきを期せられたい

夏は近づけり！
鐵腕揮ふ時は來た

夏季調査と調査員の注意

べき諸点を参考に掲げることによしう

- 一、耕地圖及作付反別調査原簿、簿加除訂正に關する件

耕地圖及作付反別調査原簿の加除整理は特に本季節に必要なものではないが開墾地等は夏季又は秋季に始めて作付を爲すものが多からうから、特に此

風薫る五月も既に半ばを過ぎ、もうすぐ六月だ、鐵腕揮ふ我等が活躍の時は來た、恰も七月より八月にかけて各調査員によつて實施される夏季調査は時こそよけれ、町村も調査員も奮つて一層調査の正確完璧を期し、一段の成果を收めようではないか。左に注意す

作物の種類	調査期	報告期限
大豆	自七月	九月十日
小豆	自七月	九月十日
サイゲン	自七月	九月十日
ラカセ	自七月	九月十日
カボチャ	自七月	九月十日
ナマ	自七月	九月十日
トスリヤ	自七月	九月十日
ハナ	自七月	九月十日
大(夏播)	自七月	九月十日
キヤベ(同)	自七月	九月十日
ミ	自七月	九月十日
サツ	自七月	九月十日
シ	自七月	九月十日
ト	自七月	九月十日
食	自七月	九月十日
用	自七月	九月十日
ニ	自七月	九月十日
ヨ	自七月	九月十日
シ	自七月	九月十日
ゴ	自七月	九月十日
ラ	自七月	九月十日
ア	自七月	九月十日
イ	自七月	九月十日
ヘ	自七月	九月十日
ハ	自七月	九月十日
ミ	自七月	九月十日
ヨ	自七月	九月十日
ハ	自七月	九月十日
ハ	自七月	九月十日
コ	自七月	九月十日
ミ	自七月	九月十日
ツ	自七月	九月十日
ウ	自七月	九月十日
マ	自七月	九月十日
タ	自七月	九月十日

果実 収穫時期 八月十日
 モモ
 オウトウ
 ビ
 フ

但しコンニャクイモ、ラミーは収穫あるものと無きものとに區別調査のこと
 三、果實の調査に關する件
 果實調査に在りては左記の点に注意し處理されたいのです

- (1) 果樹園は果實段別調査原簿を基礎とし第五果實調査票を用いて調査するのです
- (2) 果樹園以外の地に植付の果樹に在りては作人名簿を複製して其の作人の所有又は管理收穫を爲すもの、果樹の種類及樹數收穫高を調査するのです
- (3) 樹數は凡て結實の樹齡に達したるものを調査するもので其の果樹が其の年收穫が無かつた場合でも調査するのです
- (4) 梅は「合」其の他は「夕」を以て收穫高を調査するのです

四、養蠶調査に關する件
 本季に於ては夏蠶、初秋蠶を飼育するものです初秋蠶は秋蠶と共に合計して秋蠶として夏秋蠶票に記入するものと

ですから初秋に付ては手帖其の他に書留めて置き夏蠶のみの掃立數量及收穫高を調査記入するやういたされたい、夏秋蠶調査原簿には其掃立數量を夏、初秋、秋、晩秋に分け白繭、黄繭の各種類毎に鉛筆を以て記入し置き全部の掃立を終つた時之が合計を墨書するやうされたい

掃立數量は蠶種は蠶絲業法改正の結果凡て「瓦」を以て其の量を表示してありますから之が卵量何瓦であるかを調査するもので掃立枚數のみを調査し役場提出後瓦量に換算するやうなことがないやうに御注意を願ひます。

掃立後或る期間迄の共同飼育又は中途讓途に係るもの、掃立數量は蠶兒の移轉と共に其の掃立數量を加除することに願ひます中途投蠶したるものも掃立數量に算入するのです、但し此の場合は備考に其の數量及之が事由を説明するのです。

□桑 苗

(市町村報告期六月十五日限)

桑苗は前年六月より其の年五月に至る期間に於て苗木生産に従事した戸數を調査するのですが、例へば甲地に於て桑苗を生産し、乙地に經營者が住居する場合には、戸數は乙地に於て調査し苗木は甲地に就て調査するのです。尙苗木は養成済のもの、數量を調査するのですが砧木又は原苗として使用した數量は調査の必要がありません。成表に際し注意を願ひたいことは苗木生産者は毎年其の豫定本數を知事に届出る事になつて居りますから其の届出本數と對照し正鵠を期せられたい。

□春蠶豫想收穫高

(市町村報告期六月二十日限)

本表は六月十五日現在に依り擔當區内の各飼育者を巡回して實際の状況を調査し尙當業者の意見をも徴して其の區内に於ける蠶種一瓦當の豫想收穫高を決定し、之に掃立數量を乗じて算出

するのですが、若しも無收穫見込數量あるときは其れを除外したる掃立數量を乗じて算出するのです。

前年收穫高へは前年に於ける實收穫高を記載するのですが前年の豫想收穫高を誤て記載する向がありますから御注意を願ひます、備考欄へは前年收穫高に對する増減事由の外氣候の適否、飼育の經過及桑葉の發育状況等も必ず記載されたいのであります。

□麥

(市町村報告期七月十五日限)

作付反別は農産物調査方法に依つて實地調査を遂げた反別を計上するのでありますから、豫想收穫高表の反別と一致する筈であります。若し其の後調査の結果調査洩れ又は誤算等があつて増減を生じた場合には必ず其の事由を數字を以て説明するのです。

收穫高は作柄毎に決定した一反歩當收穫高に各作柄別に調査したる段別を乗じ算出の上合計を掲上するのです、

但し無收穫の反別があつた場合は之を除外する事になつて居りますから誤らぬ様に願ひます。

一反歩收穫高は調査員會に於て合議決定したものを其の儘移記する事なく總收穫高を作付反別で除したるものを掲ぐるのであります。單價は收穫季節に於ける一石の價額に依つて計上するのです。

備考には前年に比しての増減事由を詳細記載するほか、氣候の適否、施肥の多少、發育の經過及病虫害、風水害の有無を記述することを忘れぬ様注意を願ひます。

□春 蠶

(市町村報告期七月十五日限)

此調査は養蠶調査方法に據つて收穫した都度調査するのですが、一般飼育者は課税の標準等にされるものと誤解して兎角隱蔽する傾向がありますから實數を調査すること困難と認めらるゝ場合には養蠶組合等にある資料や蠶況

其の他周囲の状況より観て正確なる資料を蒐集する様に願ひます。

戸数は其の季節に於て養蠶に従事した凡ての戸数を調査するのです、蠶種掃立數量は中途で投棄したものでも一旦掃立を爲したものは、洩らさず調査せねばならないのですが、往々にして洩らす向がありますから注意を要します、表中上繭、玉繭、屑繭と區別してありますが上繭とは普通の形態を有して汚染せぬ完全なものを謂ひ、玉繭とは二つ以上の蠶兒の合体して營まれたもの、屑繭とは上、玉繭以外のものを俗に言ふビシヨ、ノビ等と稱するものを謂ふのです。

蠶種一瓦當收繭量は氣候の適否、飼育方法の如何に依つて其の割合は一律ではありませんが大體蠶種一瓦當は五六百匁位です。

□果樹苗

(市町村報告期七月十五日限)

本表は農産物調査方法により作付反

別調査の際豫め調査し置き、更に作人に就て其の種類、數量を正確に期せられたい。

生産戸数は前年七月より其の年六月に至る間に於て果樹苗の生産に従事したる戸数を調査すべきものですが甲地に於て果樹苗を生産し、乙地に於て經營者住居する場合には戸数は乙地に於て調査し果樹苗は甲地に就て調査すべきものです、又郡農會及團體等に於て苗木を生産したる場合も戸数に準じ一戸として調査せられたい。

苗木は苗圃にある現在数を調査すべきものではありません、調査期間内に於て移植に適するもの並に移植した數量を又配付販賣した數量價額を調べられたいのです。

尙左記の点に就き注意せられ正鵠を期せられたい。

- 1、苗木は仕立地の何れに拘らず生産者所在地に於て調査するものです、
- 2、苗木を自ら仕立て移植に適するも

表中根刈とは地上一尺未滿を、中刈とは同一尺以上三尺未滿を、高刈とは同三尺以上を主幹として枝條を伐截するものをいひ、立通とは一定の剪枝を行はないものを謂ふのです、尙前年の例を見るに春蠶に於て桑葉過剩の爲め刈取らざる反別を立通として調査した向もありますから注意されたい。

畑の本畑には桑を主作物とする畑反別、所謂純粹の桑畑を、畑の其他欄へは他の作物、例へば間作混作されたる桑畑を仕立方に依り夫々調査されたいのです。

其の他欄には畦畔其ノ他畑以外に栽培せられたるものを仕立方に依り反別を見積り計上すべきものであります。

□綠肥作物

(市町村報告期七月十五日限)

本表は農産物調査方法に依り調査された作付反別を調査するもので、春蒔と秋蒔たるとを問はず、綠肥の目的を以て栽培したものは總て調査するので

す、又作付後病虫、風水害等の爲に收穫皆無となつた場合でも作付反別は調査するので。作物栽培の目的が綠肥なる場合には之を家畜の飼料にしたるものでも調査すべきであります、尙其の目的が最初より家畜の資料とするときには調査は要しません。

價額の調査に就ては實際に賣買されないで調査は至難ですから大體肥料成分に基て算定する外はないのです、大體に於てレンジ生百貫の價額及モクシク生八十貫の價額は大豆粕一枚の價額に略々匹敵しますから其れに依り算定せられたい。

□澱粉

(報告期七月十五日限)

製造場數は前年七月より其の年六月に至る期間内に於て澱粉の製造作業をなしたる場數を調査し、其の生産に就ては馬鈴薯より製したるもの、甘藷より製したるもの、其の他より製したるものに別ち、各其の數量、價額を調査

のとして他地方商人に販賣し更に個人に販賣したる後其の賣殘品を肥培し、翌年に持越し販賣したる場合には仕立地に於て調査するのです、

□茶畑

(市町村報告期七月十五日限)

3、其の他の苗には枇杷、栗、梅、柘榴、無花果、櫻、桃等を調査する

本表は農産物調査方法に依り調査し採葉の樹齡に達しなくとも其の反別は調査すべきもので採葉の樹齡は普通四年位です

□桑畑

(市町村報告期七月十五日限)

畑の欄には茶を主作物とする反別及混作間作された反別を、其の他の欄には畦畔其の他畑以外に栽培された反別を見積り計上されたい。

本表は農産物調査方法に依り調査すべきものですが採葉の樹齡に達しなく洩れなく調査せられたい。

尙本表は工場調査規則該當工場のものにありては工場票との關係もありますから、工場に付き詳細調査の上正鵠を期すべきであります。

□人口動態調査票

作成に就て

毎月五日までに進達します人口動態調査票は法規の定むる所に依り夫々記入するのであります未だに不備が多くて照覆を重ねるのは甚だ遺憾に堪えません、左に特に注意すべき事項を記載しましたから今後之を参考として相違なき様御取扱を願ひます。

一、各票一般の注意

1、各票中前月最終番號と其の月の始めの番號と對照すると番號の欠號のものがありますので之を照會してみますと提出洩として追送する向もあ

りますから、前月提出しました最終の番號に適當に印を附して重複脱漏等のない様に願ひます。

ロ、他の市町村に本籍があるもので寄留地の市町村に於て婚姻、離婚、出生、死亡等を届出た場合に寄留地の市町村から小票を進達する向もありますが、右の場合は本籍地の市町村から提出し、寄留地からは提出する必要はないのであります。

ハ、年月日（出生、死亡、届出年月日等）欄に記入する文字は拾、拾貳、參拾壹等の様な文字を用ひず十、十一、三十一の様に記入するのです。

ニ、區制を施行して居る東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市、神戸市の様な所にありましては左の様に記入するのです。區制の施行しない市では町村名欄の記入は要しませぬ。

區制を施行します市の記入例
府縣の下「東京府」郡市の下に東京市

を引き備考欄に「ナシ」と記入すること、尙市町村役場名の下には、必ず町村長の職印を押捺するのです。

二 婚姻票

一、種別の欄普通、入夫、婿養子、何れの項にも鬮点洩のものありますから注意を願ひます。

四、届出の年月日本籍地を異にする婚姻の場合關係の市町村から婚姻届書廻送を受けた年月日を届出の年月日に記入するものがありますが右は戸籍簿に依り判る筈ですから混同しない様に注意を願ひます。

七、配偶の關係初婚、死別、離別、不詳の内、鬮点脱落又は二箇所に鬮点を附すものがあります、又自町村に本籍を有するもので不詳に鬮点を附すものもありますが右は戸籍簿に依つて判る筈ですから注意を願ひます

三 離婚票

一、種別鬮点脱落又は二箇所に鬮点を附するものがありますから注意を願

町村の下に「本所區」
ホ、各票中「○」点を附す箇所に○を洩らすのがあります。

ヘ、各票中「同」の文字を記入するものがありますが必ず同の文字を用ひない様に願ひます。

ト、各票中に記入する職業欄には届書にありませぬ職業を記入することになつて居りますが配付してある職業分類の小分類に依り分類が出来る様に記載を願ひます。

職工は單に職工としないで石工、左官、家大工等と詳しく記入して頂きます。

農業のものは農作、小作農作と記入しないで農耕業主、農業手助の様に記入するのです。

他市町村から送付して來ます届書に單に職工又は職業が不明のものは其の旨符箋して置くのです、本業なき家族は單に「ナシ又は無職業、其の他の無業者」としないで家族の一員

四、協議離婚届出の年月日、本籍地が違ふ場合の離婚で他市町村から書類の廻送を受けたる年月日を届出の年月日に記入するものがありますが右は届書に記入しある届出の年月日を記入するものですから注意を願ひます。

五、裁判離婚。確定の年月日は訴を提起した年月日を記入せず離婚届書に添付の裁判の謄本に記載しある裁判確定の年月日を記入するのです。

七、氏名欄には離婚成立後即ち離婚に依つて復籍するものは其の復籍した其の家戸主又は離婚に依つて一家創立したものは其の氏を記入するのです。

四、出生票

種類番號の下（ ）内に嬰兒以上は雙兒又は三兒と記入するのです。

一、氏名及男女の別氏名では男であるか女であるか疑はしいものもありま

なるときは、從屬者と記入するのです。小學校の兒童は單に生徒と記入して差支ありません。無業者で一定の収入がないものは「其の他の無業者」と記入するのです。

二、調査票進達に就て

イ、調査票の進達に就ては調査票と市町村送致目録と一括して進達することになつて居りますが調査票のみで送致目録添付洩のものもありますから御注意を願ひます。

ロ、調査票の紛失毀損等を防ぐため従來封を施し進達する事になつて居りますが、各町村共帯封が區々ですから爾今左記に依り進達を願ひます

- 1、各票括は幅凡一寸
- 2、町村括は前同様とし縦横（十字形）に之を施すこと
- 3、紙質は成るべく強靱の生紙を用ふるやう願ひます

一、市町村送致目録
調査票のなき欄は枚數の箇所に斜線

すから其の場合は相違なき旨の符箋の貼付を願ひます。

五、父母の職業欄。嫡出子のときは父母双方の、庶子のときは父のみの、私生子の場合は母のみの職業を記入するのです。

六、父母の出生の年月日欄。前同様嫡出子のときは父母の、庶子のときは父のを、私生子の場合は母の出生の年月日を夫々記入するのです。

出生後命名前に死亡したものは氏名欄には「名ツケズ」と記入するのです
妊娠中に父死亡したときは父の出生の年月日は戸籍簿に依つて記入し職業は死亡前の職業を記入するのです

五、死亡票

一、氏名及男女の別。氏名のみで男女兩方に鬮点洩のものがあります。注意を願ひます。

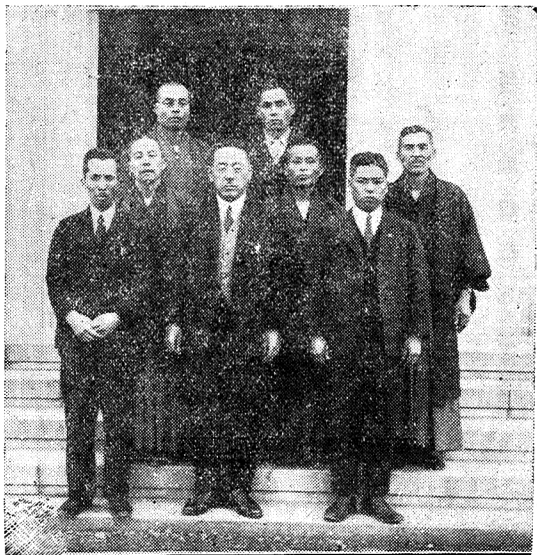
三、四、死亡の年月日と出生の年月日と顛倒記入のものが有りますから注意を願ひます。

- 五、六歳未満の者の身分嫡出子、庶子
私生子の身分に圜点洩れのものがあり
ます注意を願ひます。
- 六、配偶の關係、六歳未満でも未婚に
圜点を附するのです。
- 七、死亡者が家計の主働者のときは
(甲)死亡者の職業を記入し(乙)家計の
主なる職業は斜線を引き死亡者が主
働者でないときには死亡者の職業を
(甲)職業に記入し家計の主なる職業
を(乙)職業に記入するのです。
- 八、死亡の原因欄、自殺には縊死、入
水、轢死等の様に其の手段を記入す
る筈ならに單に自殺と記入するもの
又其の他の變死の種類欄に記入する
溺死を記入するものがあります。
- 失踪の宣告を受けた者並戸籍簿の規
定に依つて裁判所の許可を得て戸籍
抹消した者は人口動態調査票及送致
目録作成心得第十七、第十八に示す
様に「種類番號第號」と印刷してある
下の括弧内に失踪又は戸籍抹消の文

- 字を記入するのです。
- 六、死産票
- 二、男女の別圜点洩れ又は男女兩方に
圜点を附すものがあります注意を願
ひます。
- 四、妊娠の月數記入洩れ又不詳のものも
其の旨記入洩れがありますから注意を
願ひます。
- 五、嫡出子の場合、六 項母の職業記
入は必要なものなるに記入のもの
がありますから注意を願ひます。雙
胎兒及三胎兒は人口動態調査票及送
致目録作成心得第十九に示す様に
「埋火葬認許證番號第 號」と印刷し
てある下に雙兒の區別を記入するの
です。
- 本票は本籍人非本籍人であるとな
いとを問はず總て埋火葬の認許證を下
付したものに就て作成するものなる
も本籍人に就てのみを作成すべきも
のと誤解して非本籍人は作成しない
向もありますから注意を願ひます。

投稿歓迎

- 一、種類に制限ありません(論說
所感、體驗實記、質疑、文藝
其の他)揮つて投稿されたい
佳作には賞品を呈します。
- 一、用紙は成るべく原稿紙とし文
字は明瞭に書かれます。
- 一、原稿には住所氏名を明記する
こと(但し誌上の匿名は差支
ありません)
- 一、原稿の取捨採否は編輯部に一
任されたい
- 一、七月號は六月二十日迄に送付
こと
- 一、原稿は一切返送しません
- 一、宛名は「茨城縣廳統計課内茨
城縣統計協會編輯部」宛のこ
と



古渡調査員の視察

稻敷郡古渡村助役矢崎忠助氏、主任書記諸岡忠太郎氏
外調査員七名は三月廿六日、那珂郡村松村の統計事務
視察を企て、役場において各種統計の整然たる書類や
小票を前に主任書記から説明を聴きそれから名高い虚
空藏に詣で、青嵐の佳景を賞して歸途縣廳に立寄り記
念撮影して引揚げた(寫真前列右から郡擔任の關廣、
川崎課長、小林屬、其他は視察の一行)

統計課員總出動 廣汎な指導訓練

指導町村百二十に及ぶ

- 農林省並に商工省統計報告規則
取扱細則の實施不充分なる町村に
對し縣統計課では四、五の兩月に
亘り約六十箇町村に對し、川崎課
長をはじめ統計課員出張の上調査
員の指導訓練會を開催したが、こ
れを機會に隣接町村も集合せしめ
たので其の指導町村數は百二十町
村に及び、各地共非常な緊張のも
とに指導を受け、頗る効果的であ
つたといはれてゐる、願くはこの
指導訓練をその場限りとせず、進
んで統計の完全を期せらるゝやう
されたい。指導要項左の如し
- 一、本調査員會開催の趣旨
- 二、報告期限の勵行に關する件
- 三、調査區の境界に關する件
- 四、調査準備に關する件
- 五、作付段別調査原簿に關する
件
- 六、作付反別と調査に關する件
- 七、農産物其他調査時期選擇
に關する件
- 八、集計表に關する件
- 九、收穫高の決定に關する件
- 一〇、春季調査に關する件
- 一一、米生産統計調査の件
- (1) 米生産統計基準票
- (2) 米生産統計調査票
- (3) 米作地見取圖

細密な學事年報査閲

口繪の寫眞參照……

學事年報甲款及び諸表査閲は四月十一日より同廿五日迄の間に於て市町村學事擔任吏員及各學校年報調査主任教員の集合を求め縣統計課から各擔當者が出張、それ／＼携帯せる學齡簿並に學籍簿、八年度學事年報控、就學猶豫免除關係書類、各學校提出に係る材料各學校九年二月より十年三月末に至る調査表、出席簿及學年末調査表、其他の調査資料、兒童及生徒異動明細表等につき細密なる査閲を行つた。査閲日割は左の通りである。(口繪の寫眞參照) 場所 査閲月日

久慈	茨城縣廳	四月十八日
多賀	松原町役場	四月二十二日
鹿島	元鹿島郡自治會館	四月二十三日
行方	麻生町役場	四月十七日
稻敷	茨城縣蠶業取締所 江戸崎支所	四月十五日 四月十六日
新治	土浦小學校	四月十六日
筑波	谷田部町役場	四月十九日
眞壁	元眞壁自治會館	四月十三日
結城	元結城自治會館	四月十一日

猿島	境町役場	四月十三日
北相馬	元北相馬郡自治會館	四月二十四日
水戸	縣統計課	四月二十五日

本縣統計事務視察

埼玉縣統計主事補森松孝作氏は三月六日、岐阜縣屬篠田恒次氏は三月十九日、岡山縣屬池畑房明氏は二月二十七日に孰れも來縣せられ本縣統計事務の處理狀況、經費、町村監督の狀況並指導方法其の他詳細に亘り視察した、又陸軍被服本廠陸軍二等主計原晴次氏は三月二十八日資源調査事務に付來縣、是れまた詳細に調査する處あつた。



各地統計雜信

調査員諸君
何なりと揮
つて御通信
を願ひます

武藤水海道町長 統計の重要性力説

統計調査員會に於て

結城郡町村長會第四支部主催、水海道町外六ヶ村の統計調査員會は去る四月五日午前十時より水海道尋常高等小學校講堂に於て開催した、朝來の雨にもめげず定刻九時迄には六十余名參集した。

劈頭武藤水海道町長は統計調査そのものは甚だ地味なものである、之に従事する調査員各位の御骨折は寔に御苦勞であるけれども又振り反つて考へるに國政の基礎をなすものは統計であ

ります、小く云へば一町村の基をなすものは統計であります、故にその統計が不備であり不完全なものであつたならば其の結果は實に恐るべきものであることを具体的に述べて開會の挨拶に於て調査員を激勵し、續いて縣より臨席の川崎統計課長は現時農村救済對策として種々計劃を樹てそれ／＼實施しつゝあるも、之が基礎をなす處の統計、即ち救済の對照となるべきものゝ調査が完全に行はれてゐるか否かは事業の遂行上に重大な關係を持つてをり、若し調査が完全に施行されてゐないやうなことがあれば其の結果は推して知るべきである、何事に依らず基礎調査即ち統計が完備し居らざれば確固たる方

策は樹立し得ないと

と説明し、更に昭和九年度米生産統計調査に際し——九月二十日現在にて二百八萬七千二百石と發表せる第一回豫想收穫高に對し見積過大なりとの批難を受けたるも、統計調査は、統計調査員が各單位觀察に依つて得たる數字であつて決して人為的に動かす可らざるものであると述べ、進んで結城郡統計調査の成績を検討し、去る二月より三月に亘り施行された統計事務監査の成績より見るに他郡に比し甚だ下位にあるは遺憾に堪へないとして一段の努力を要望し、續いて小泉屬より統計調査員會々議要項(別面所載)に依り各種調査に就き詳細説明をなし午後一時四十分閉會した。

出席者は左の如く役場員七名、調査員五十三名で頗る緊張した集りであつた。

△縣 川崎統計課長、小泉屬

△水海道町 武藤町長、小島書記
 (調査員) 杉山利助、堀越留吉、荒井藤四郎、古谷金次郎、五木田清吉、片野新吾、山野井吉雄、五木田保太郎、倉持己之助

△大生村 廣瀬書記、(調査員) 木橋榮三郎
 宇津見正一郎、永瀬永一、渡邊勝馬、杉山謙、秋場男助、飯田嘉一郎、木村谷四郎

△三妻村 船張書記、(調査員) 小林清次郎
 倉持藤吉、皆葉保、柳田長吉、小口正夫
 中澤幸之助

△五箇村 星野書記、(調査員) 橋本碩二、
 坂入長吉、岩上辰治郎、柴芝六、廣瀬源太郎、澤田豊壽、角野映、小野松之助、吉原芳次郎

△菅原村 大根書記、(調査員) 戸塚仙松、大越兼吉、戸塚森之助、中野伊重郎、北島繁藏、高橋由之助、山崎伊一郎、岡野吉重郎、大野角次、香山高之助、新井與四郎、齋藤善四郎

△豊岡村 中島書記、(調査員) 中島新三郎
 小林春次、若木貞藏、石塚捨吉、中島凌之助、石塚春吉、本田作次郎

△大花羽村 石塚助役、(調査員) 草間幸三郎、石塚玄吾

出席八十名

久慈學事統計研究

久慈郡學事統計事務研究會は四月五日午前十時より久慈郡自治會館に開催縣より全郡擔任の郡司屬が臨席して學事年報甲款及諸表作成上の注意竝に様式に就て詳細に亘る説明があり、幾多熱心なる質問に答へ午後三時閉會したが出席者は各町村書記並に小學校職員等左記七十九名に達し頗る盛會であつた。

(縣) 郡司屬 (町村長會) 小祝幹事
 (町村並小學校)
 (磯初村) 加藤書記、秋山訓導 (世矢村)
 黒澤書記、白土訓導 (坂本村) 大内書記
 磯野訓導 (東小澤村) 大貫書記 (西小澤村) 小祝助役、菊池訓導、栗田訓導
 (幸久村) 稻川助役、綿引訓導 (佐竹村) 石川書記、檜山訓導、高野訓導 (郡戸村)

指示事項

△統計事務刷新改善ニ關スル件 △調査員訓練會ニ關スル件 △統計調査員ノ指導ニ關スル件 △統計協會ニ關スル件

注意事項

△報告期限ノ勵行ニ關スル件 △統計報告表製表上ニ關スル件 △園藝農産物蔬菜及花卉ノ三 △蠶網 △藜製品 △木(竹)製品
 尙出席者は左記縣屬並に横須賀上大野村助役外二十七名である。

(縣統計課) 虎口屬、吉見屬 (郡統計事務研究會) 江橋主事 (統計主任) 上大野横須賀孝太、下大野平戸清二、稻荷篠原辰次郎、大場 渡邊榮一、酒門 坂場佛三郎、石崎 大和安、吉田 皆川藤左衛門、綠岡 小林信雄、上中妻 藤地伴介、長岡 寺山一、上野合 田家熊吉、白河 小野精一、橋 内田重五郎、小川 高野林藏、竹原 大貫專之助、堅倉 飯塚長松、磯邊忠信、川根 道川定治、中妻 鶴田主計、飯富 安島彌八郎、小松 園部保彦、西郷 大高秀男、坪 島山信孝、岩船 平賀誠、澤山 小林克 伊勢畑

安島書記、金子訓導、根本訓導 (久米村) 川崎助役、田所訓導、鈴木訓導 (金郷村) 生田目書記、須藤訓導 (世喜村) 古德書記、野澤訓導、菊池訓導 (金砂村) 秋山書記、大内訓導 (天下野村) 根本書記 (高倉村) 中郡書記、小野瀨訓導 (染和田村) 後藤書記、石崎訓導 (山田村) 和田書記、鈴木訓導 (佐都村) 江幡書記、宮田訓導 (河内村) 鈴木書記、菊池訓導 (中里村) 石井書記 (賀美村) 佐川書記 (小里村) 澤野書記 (生瀬村) 増子書記、内藤訓導、寺門訓導 (宮川村) 松本書記、渡邊訓導、菊池訓導 (黒澤村) 菊池書記、益子訓導、小野瀨訓導 (依上村) 益子書記、木村訓導 (佐原村) 町島書記、益子訓導 (大子町) 益子書記、宮田訓導、益子訓導 (袋田村) 菊池書記、田所訓導 (上小川村) 宮田書記、仁平訓導 (下小川村) 仁平書記、富岡訓導、石川訓導 (諸富野村) 三次書記、川崎訓導 鹽崎訓導、森永訓導 (太田町) 菊池書記 黒羽訓導、豊田訓導 (久慈町) 小川書記 荒川訓導、清水訓導、小野訓導 (譽田村) 根本助役 鈴木訓導 丹訓導

疋田忠道、磯濱 田口富之介、大貫 小沼清吉

行方統計事務研究會

行方郡統計事務研究會では定期總會を去る四月六日同郡玉造町役場に開催した、午前十時三十分小貫研究會長の挨拶で開會、劈頭紀元節の佳辰を卜し統計功勞者として本協會安藤總裁より表彰された全郡八代村書記鬼澤長四郎及全郡行方村統計調査員藤生孫太郎兩氏に對する傳達式を行ひ、川崎統計課長これを傳達して總裁の式辭を代讀、來賓總代として小貫研究會長の祝詞及受賞者總代八代村鬼澤書記の答辭あつて閉式、直に研究會の表彰式に移つた表彰状は小貫研究會長から全郡玉造町統計主任の成島書記に授與し、次いで川崎統計課長より祝詞を兼ね今後共責務の重且つ大なるを思ひ一層努力せらるゝ様激勵する處があつた。かくて

東郡統計研究總會

二月二十二日午前十一時東茨城郡統計事務研究會の總會を全郡町村長會事務所に於て開催、併せて紀元節の佳辰にあたり表彰された水戸市農林統計調査員福田金次郎、東茨城郡下大野村書記平戸清二、全郡上中妻村書記藤地伴介、全郡長岡村書記寺山一諸氏に對する縣統計協會の表彰状及び賞品の傳達式を各町村吏員參集の下に嚴肅に舉行した。

吉見屬の挨拶に次いで副會長代理として虎口屬より賞状を傳達、祝辭を述べ次に江橋主事より會長代理として研究會開催の挨拶をなし昭和十年度全郡研究會の豫算及び昭和八年度決算を滿場一致可決し終つて吉見屬より縣提出の議案につき更に虎口屬より統計協會希望事項について夫々説明質疑應答の後午後一時閉會した。

同日縣の提出議案は左の通りである。

統計協會 支部總會

少額後統計協會行方郡支部設置の件を異議なく可決、昭和八年度歳入出決算の認定及昭和十年度歳入出豫算議決に關する件を満場一致可決承認した、尙會則の示す處によつて會員の互選で左の通り支部長以下役員を決定し續いて總會の議決に依り顧問の推薦を行つた

△支部長小貫三郎 △副支部長鬼澤長四郎 △幹事正木邦司 全浦橋筆松 全石橋金一 △顧問藤生孫太郎

次いで小林屬より協會提出事項に依り指示及説明の上質疑應答を重ね午後二時三十分盛會裡に散會した。當日の出席者は左の通り

(縣統計課)川崎課長、小林屬 (統計主任) 麻生町正木書記 香澄村森内書記 八代村鬼澤書記 潮來町松崎書記 津村秋永書記 大生原村浦橋書記 大田村萩原書記 大和村平塚書記 津澄村宮本書記 要村石橋書記 武田村小貫書記 秋津村鬼澤書記 立花村今泉助役 現原村仁平書記 行方村河須崎書記 玉造町成島書記 手賀村高塚書記 延方村小林

書記

統計協會 支部總會

三月一日統計協會總會の際協議事項として提出され、各代議員の承認する處となつた統計協會郡支部設置に就ては、西茨城郡が斷然縣下のトップを切つて三月十八日、笠間町役場樓上に各町村主任者が參集して總會を開き設立した、同日は縣より川崎統計課長及郡擔任の成瀬屬出席の午後零時三十分開會、劈頭去る二月十一日紀元節の佳辰に當り縣統計協會總裁より表彰された宍戸町統計主任川井德義氏に對する

傳達式を舉行することとなり、成瀬屬舉式を告げ、川崎統計課長より表彰状を、成瀬屬より記念品を授與、川崎課長は安藤總裁の式辭を代讀す、次いで被表彰者川井氏の答辭、笠間町助役結解正氏の祝辭ありて閉式、續いて同支部總會に移り會の名稱變更(從來の郡統計事務研究会を縣統計協會西茨城郡

支部となす)、會則の改正をなし、役員は孰れも重任に決し更に十年度同支部歳入歳出豫算を原案通り議決し其れより事業の遂行並事務の刷新向上に付種々協議し午後三時終了した。出席者左の如し

(縣統計課)川崎統計課長、成瀬屬(笠間町)結解助役、大嶺書記 (宍戸町)川井常設委員 (岩間町)宇都野書記 (大原村)石井書記 (大池田村)川松書記(北山内村)田村書記 (東那珂村)宮崎書記 (北那珂村)輕部書記 (岩瀬町)物井書記

多賀郡支部創立

本縣統計協會多賀郡支部創立總會は三月二十五日多賀郡自治會館に開催、縣より川崎統計課長並に郡擔任の成瀬屬臨席し宮田(北部)丸山(南部) 統計事務研究会長及び瀧(北部)弓野(南部)各副會長以下各町村統計主任出席、劈頭先づ去る紀元節に縣統計協會總裁より表彰された河原子町助役鈴木徹、松

原町書記沼田至之兩氏に對する表彰狀傳達式を行ひ、成瀬屬舉式を宣し、川崎統計課長より表彰狀を成瀬屬より記念品を授與し次で川崎課長安藤總裁の



川崎統計課長から表彰狀を授與する様子

式辭を代讀の後一場の挨拶を爲し、丸山南部統計事務研究会長の祝辭、受賞者總代鈴木徹氏の答辭

ありて閉式、續いて同支部創立總會に移り支部設置の件並支部長選任を議し支部長に松原町長宮田厚氏を選任會則を議定し、更に引續き研究に移り縣提出の指示、注意事項に就き成瀬屬の説明あり質疑應答を重ねて閉會した。

出席者左の通りである。(統計課)川崎統計課長、成瀬屬(坂上)丸

筑波中部研究会

山助役、田村書記 (河原子)鈴木助役、黒澤書記 (鮎川)黒澤書記 (助川)鍋木書記 (日立)大内書記 (日高)根本書記 (黒前)弓野助役、根本書記 (豊浦)吉田書記 (櫛形)椎名書記 (松原) 宮田町長、沼田書記 (松岡)佐藤書記 (高岡)豊田書記 (南中郷)瀧書記 (磯原)滑川書記 (關南)中軍書記 (大津)二田書記 (平潟)本瀧書記 (關本)水野書記

筑波郡中部統計事務研究会では三月二十六日同郡葛城村役場に於て定例研究会を開き縣統計課より同郡擔當の岡崎統計主事補が臨席した、午前十時研究会會長横田縣會議員の開辭について縣提出の左記事項を谷田部町富澤書記が朗讀、岡崎主事補より詳細説明の後質疑應答を重ね眞瀨村提出事項を附議し午後二時三十分閉會した。出席者左の如し

島名村長横田内藏之丞 同書記高谷文齋 葛城村助役櫻井藤次郎 同収入役高野幸

一郎 同書記中島敏 福岡村書記飯泉辰谷田部町書記富澤好彦 上郷村書記 大崎永次 旭村書記佐々木正美 眞瀨村書記宇都野竹雄

指示事項

一、統計事務刷新改善に關する件 一、調査員訓練會に關する件 一、統計調査員の指導督勵に關する件 一、統計協會に關する件

注意事項

一、報告期限の勵行に關する件 一、統計報告製表上に關する件 一、公私有林野人工造林に就て 一、公私有林野天然造林に就て 一、公私有林伐採に就て 一、統計費補助金に關する件 一、春蠶豫想掃立數量に就て 一、麥豫想收穫に就て

眞瀨村提出協議案

一、米生産統計調査に就て 一、統計協會總會開催に就て

立花調査員の視察

行方郡立花郡では去る四月十五日優

良村視察の爲今泉助役が調査員一行十名を引率して午前十時縣廳統計課に立寄られ統計事務狀況計算機の實演を見學、廳内一巡の上那珂郡佐野村の統計事務を視察した。一行は左の通りである。

引率者 今泉助役、調査員 幡谷福二、狩谷淳、羽生利兵衛、川崎景治、小沼勇三郎、遠藤平次郎、荒井寅次郎、舟串恭藏、遠藤武雄、井野場貞雄

鹿島統計調査員會

鹿島郡鉾田町及白鳥村統計調査員會を議は四月五日白鳥村西尋常高等小學校に開催、縣統計課より同郡擔任の齋藤囑託が臨席、午前十時三十分白鳥村統計主任菅谷書記の開辭に次いで戸島白鳥村長の挨拶があり、齋藤囑託は挨拶を兼ねて農林商工統計報告規則取扱細則に基く調査方法の實施方に關し激勵したる後同細則に依り各種調査方法に對する説明並調査上に於ける注意を

爲し、續いて縣提出の調査員會々議要項(別項所載)に依り指示及注意を爲したる上質疑應答を行ひ一同熱心に研究協議を遂げ午後二時三十分閉會した。當日の出席者は左の通である。

出席者氏名

(縣統計課)齋藤囑託△白鳥村長戸島敬一郎 同書記菅谷保一、同調査員門井與志衛 入見彌範、森戸盛司、戸島爲男、日向寺富七、飯島甫、小野一二、菅谷覺雄、本澤歌之助、須賀金一△鉾田町書記石上誠 同調査員戸井田富重、笹目安五郎

北相馬郡町村長會

統計事務研究會

北相馬郡町村長會では四月八日同郡取手町元自治會館に統計事務研究會を開催したが之れに先だち紀元節の佳辰にあたり本縣統計協會總裁より統計事務功勞者として表彰された同郡菅生村書記大瀧寅直氏及文村書記篠崎浩氏に對し之が表彰傳達式を午前十一時より

舉行、縣統計課より川崎統計課長及郡擔任の菊池主事補が列席、同郡町村長會長新井内守谷村長舉式の辭を述べ、菊池主事補表彰文を朗讀、川崎課長から表彰状並記念品を授與、安藤總裁の式辭を代讀して後祝辭を述べ町村長會長の祝辭、被表彰者代表文村書記篠崎浩氏の答辭ありて傳達式を終へ引續き菊池主事補より縣提出の研究事項に依り指示及説明を爲し最後に統計協會郡支部設置に關し協議を遂げ午後二時閉會した。出席者並研究事項左の如し

指示事項

- 一、農産物調査方法實施に關する件
- 一、調査員訓練會に關する件
- 一、農産物調査方法に示す以外の調査に關する件
- 一、事務簿の整理に關する件

注意事項

- 一、報告期限の勵行に就て
- 一、報告諸表の内容審査に就て
- 一、備考欄の活用
- 一、各種豫想報告に就て
- 一、重要産物の豫想及實收高の公表に就て

一、一段歩收穫高決定書作成に就て
 一、統計報告表製表上に就て
 一、農産物調査算出表に就て
 一、春蠶豫想掃立數量に於て
 一、麥豫想收穫高に就て
 一、菜種調査に就て
 一、桑苗其他各種表に就て

出席者氏名

△縣廳側 川崎課長、菊池主事補 △郡町村長會 長新井芳之助、同幹事山田義伊 △菅生村 大瀧寅直 内守谷村 兼子作治 小絹村 吉田彌太郎 大井澤村 大串己之藏 大野村 貝塚久彌 高野村 渡邊留吉 守谷町

下村光三郎 高井村野口梅次郎 稻戸井村海老原林次 山王村高野保 寺原村小笠原龜次郎 取手町市村卓 井野村古谷誠 小文間村齋藤鐵三郎 相馬町色川新太郎 高須村杉山常吉 川原代村下妻簡三郎 北文間村來栖正 文村篠崎浩 布川町石塚庄作 文間村大野喜一 東文間村坂本惠

久慈郡支部創立

久慈郡統計事務研究會は統計協會支部創立總會を兼ねて四月十五、十六の

兩日全郡自治會館に各町村主任者が出席して開催、縣より川崎統計課長並に郡司屬が出席した、研究會開會に先ち紀元節の佳辰に當り縣統計協會總裁より表彰された小里村書記小田部嘉一、佐竹村書記片岡榮三、中里村農林商工統計調査員鈴木國一郎諸氏に對する表彰狀の傳達式を舉行、郡司屬舉式を宣し川崎統計課長より表彰狀を郡司屬より賞品を授與し次いで川崎統計課長は安藤總裁の式辭を代讀の後一場の挨拶

統計調査員

市町村		報告期限	
六月	綿織物産額調(特定町村)	三月	五日
六月	絹織物及絹綿交織物産額調(〃)	五月	五日
六月	人口動應調査票	五月	五日
六月	賃錢(〃)	五月	五日
六月	果樹苗	十五日	十五日
六月	茶畑	十五日	十五日
六月	桑畑	十五日	十五日
六月	春蠶	十五日	十五日
六月	春蠶豫想收繭高	十五日	十五日
六月	春蠶豫想提出	十五日	十五日
六月	家禽調査準備並實施	三十日迄	
七月	茶畑	五日	五日
七月	夏季作付段別調査準備並實施	五日	五日
七月	濃粉	十五日	十五日
七月	綠肥用作物	十五日	十五日
七月	末日	十五日	十五日

を爲し、小祝町村長會幹事の祝辭、受賞者總代小田部嘉一氏の答辭があつて閉式續いて同支部創立總會に移り支部設置の件を満場一致を以て決議の上、會則を議定し尙引續き研究に移り縣より提出の指示、注意事項に就き郡司屬より説明して質疑應答を爲し閉會した。出席者は左の如し

- (統計課) 川崎統計課長、郡司屬 (統計協會久慈郡支部) 小祝幹事 (機初) 加藤書記 (世矢) 黒澤書記 (坂本) 大内書記 (西小澤) 高野書記 (幸久) 宇野書記 (佐竹) 片岡書記 (郡戸) 安書記 (久米) 富永書記 (金郷) 仲田書記 (世喜) 古徳書記 (金砂) 會澤書記 (高倉) 吉成書記 (天下野) 根本書記 (榮和田) 鈴木書記 (山田) 和田助役 (譽田) 江幡書記 (佐都) 渡邊書記 (河内) 鈴木書記 (中里) 鶴田書記 (賀美) 助川書記 (小里) 小田部書記 (生瀬) 川上書記 (宮川) 菊池書記 (黒澤) 益子書記 (依上) 益子書記 (佐原) 矢田部書記 (大子) 皆吉書記 (袋田) 藤田書記 (諸富野) 中島書記 (太田) 滑川書記

菅村小學校に於て同郡中部統計事務研究會並に統計調査員會を開催、縣統計課より郡擔任の筑内主事補出席した、此の日は村長不在のため全村主任書記の司會の下に開催され、開辭に次ぎ筑内主事補より縣提出の統計調査員會要項に就き詳細に互り説明をなした後質疑應答を重ね何れも熱心に研究された

會議要項

- 一、調査員會開催の趣旨 一、報告期限の勵行に關する件 一、調査區の境界に關する件 一、調査準備に關する件 一、作付反別調査原簿に關する件 一、作付反別實地調査に關する件 一、農産物其の他調査時期選擇に關する件 一、集計表にする件 一、收穫高の決定に關する件 一、春季調査に關する件 一、米生産統計調査の件 一、米生産統計基準票 一、米生産統計調査票 一、米作地見取圖

尙ほ出席者は左の通りである

△五霞村助役藤沼文三全書記小野寺繁藏

(久慈) 大内書記

多賀 學事事務研究會

多賀郡南部學事事務研究會は四月十四日助川町役場内に開催した、縣より統計課の成瀬屬出席して學事年報甲欸及諸表の作成上の注意及様式に就ての詳細なる説明があり質疑應答をなし散會した。出席者は左の通りである

Table with 2 columns: 町村名 町村役場職員, 學校職員. Lists names and titles of participants from various villages and schools.

猿島中部研究會

四月八日午前十一時より猿島郡生子

調査員十名△長田村書記加藤由之助、調査員七名△幸島村書記赤岩啓四郎△森戸村書記田村芳藏調査員三名△靜村書記五月女秋三郎△猿島村書記野中久衛△八俣村書記高橋伊七郎調査員六名△逆井山村和田喜市△生子村書記鶴見忠調査員十名

北郡西部研究會創立

北相馬郡西部十ヶ村では四月十二日小絹村小學校に統計事務研究會創立總會並調査員指導訓練會を開催した、縣統計課より川崎統計課長及郡擔任の菊池主事補が列席、午前十時二十分小絹村野本村長の開辭により開會、川崎課長は統計の重要な所以及調査員の職責に就て訓示を兼ね激勵の挨拶を述べ菊池主事補より調査員會議要項に依り説明を爲し質疑應答あり零時三十分調査員訓練會を終了、午後二時より西部統計事務研究會創立總會を開き小絹村中村助役の挨拶について同村吉田書記の經過報告あり小絹村長議長となりて

統計調査員異動

(上は新任 括弧内は舊)

Table showing personnel changes for statistical surveys. Columns include names, dates, and locations. Includes names like 昭和十年二月一日, 前田 豊一, etc.

Table showing personnel changes for statistical surveys. Columns include names, dates, and locations. Includes names like 桑田 一郎, 松崎 東海男, etc.

會則並に豫算を議決し菊池主事補の告辭ありて午後四時閉會した。

創立總會出席者

△小絹村長野本鷹之助、同助役中村督次郎、同書記吉田彌太郎△菅生村長鈴木敏同書記大瀧寅直△内守谷村書記兼子作治△坂手村助役石塚源吉△大井澤村書記谷田具市藏△大野村書記貝塚久彌△守谷町長古谷茂三郎、同書記同書記田中正△高野村長寺田通三郎、同書記渡邊留吉△稻戸井村書記海老原林次△高井村書記野口梅次郎

調査員訓練會出席者數

(菅生村)四名 (坂手村)八名 (内守谷村)四名 (小絹村)九名 (大井澤村)五名 (大野村)五名 (高野村)五名 (高井村)四名 (守谷町)七名 (稻戸井村)十名

統計調査員部會表彰

久慈郡中部統計事務研究會は四月二十三日金砂村役場に開催され併て中部研究會長より表彰の五ヶ年以上勤続後退職した統計調査員に對する表彰式が

舉行された、午前十時半菊池金砂村長開會を宣し、元高倉村統計調査員小室一郎外五氏に效績状を交付し郡司屬の祝辭があつて後、研究會に移り別記町村提出の協議事項並昭和八年度全九年度の決算報告を附議し午後二時閉會した。

協議事項

- 一、合筆調査に關する件(世喜村提出)
- 一、農林統計報告規則取扱細則に依る調査集計表の改正に關する件
- 一、統計調査員在職中死亡の場合統計協會總裁より弔辭並弔慰料を賜り弔意を表せられ度件(以上賀美村提出)

被表彰者

元高倉村統計調査員小室一郎、元梁和田村全石川健次、元賀美村全権名治昭、元世喜村全砂川信一、菊池徳重、元金砂村全中西忠隆

出席者

(縣)郡司屬(金砂)菊池村長、會澤書記(小里)小田部書記(賀美)助川書記(中里)鶴田書記(高倉)吉成書記(天下野)根本書記(梁和田)鈴木書記(金郷)荒井書記(世喜)古德書記

同	四月二十二日	久慈郡金砂村
同	中西 厚	(中西 忠隆)
同	四月二十二日	東茨城郡岩船村
同	平賀 金	(平賀 誠)
同	五月一日	北相馬郡高野村
同	長塚 富三郎	(石塚 定次)
同	岩田 正	(岩田 毅)
同	四月三十日	久慈郡賀美村
同	北野 新一郎	(北野 鷹之介)
同	石川 重太郎	(石川 源太郎)
同	大森 勇男	(権名 治昭)
同	五月二日	北相馬郡小絹村
同	飯田 一太郎	(中村 勝次郎)
同	五月三日	新治郡志筑村
同	坂野 滿雄	(坂野儀右衛門)
同	金子 俣	(市ノ澤 好光)
同	五月四日	猿島郡生子菅村
同	山口 吉三郎	(塚原 記三郎)
同	染谷 伊平	(染谷 和三郎)
同	片倉 伊十郎	(染谷 定四郎)
同	五島 武助	(金久保 善平)
同	板垣 義幹	(青木 長松)

沿海四十里

縹渺誇る霞ヶ浦

水産實に八百萬圓

本縣にのみ恵まれた無限の寶庫

縣統計課の調査

總額に於て百五十二萬

先頃、縣廳内に開かれた産業振興會議に於いて安藤知事がいはれた如く、本縣は生産物の需給關係上絶好な地の利を占めてゐる一方、四十里に垂んとする海岸線を有し、我國第二を誇る霞ヶ浦を擁することは、獨り本縣にのみ與へられたる天恵ともいふべく、この天然の寶庫を開けば水産無限の發展を語りて餘りあるものがある。本年四月縣統計課の調査したところによると、昭和九年における本縣の水産物總價額は實に七百八十萬九千二百一十一圓に上つてゐる、これを種類別に觀れば

◇沿岸漁獲物が二百八十一萬七千八百五圓◇遠洋漁業が百三十八萬八千九百七十六圓◇水産養殖によるもの三萬六千四百二十圓◇水産製造物が三百五十六萬五千八百二十圓となつてゐる、然してこれを前年に比べてみると

七千四百六十九圓(二割四分三厘)を増し、沿岸漁獲物で二十五萬四千九百四十六圓(九分九厘)、遠洋漁業に於て二十萬五千八百八十八圓(二割七分四厘)、水産養殖に於て四千四百三圓(一割三分八厘)、水産製造物において百六萬三千四百八十二圓(四割二分五厘)の何れも素晴らしい増加を示した。更にこれを郡市別にすると鹿島郡の二百三十三萬九千五百一圓が第一位で、多賀の二百二萬八千五百十八圓之れに次ぎ、那珂の百六十六萬九千四百九十圓、久慈の八十七萬四千八百八圓、東茨城の三十七萬五千二百八十四圓、行方の二十二萬七千七一圓、新治の十七萬三千四百六十八圓の順序となり、稻敷、北相馬、筑波、猿島、結城、眞壁、水戸、西茨城の順位に何

れも十萬圓に充たない、又これを種類別に各郡の順位をみる
と沿岸漁獲物では是亦鹿島の百一萬七千六百六十五圓を筆頭に
多賀の七十萬九千五百四十七圓、那珂の二十九萬五千二百五
十圓、久慈の二十六萬六千五百七十七圓、東茨城の十八萬八千五
百六十圓、行方の十三萬三千三百七十七圓、新治の十萬三千
四百十七圓といふ順をなし、稻敷、北相馬、猿島、結城、眞
壁、筑波、水戸、西茨城の順位で何れも十萬圓を越えない。

遠洋漁業では那珂郡が

第一位で九十九萬八千五百七十圓、之に亞ぐは多賀郡だが
非常な差額で十七萬一千七百七十六圓、久慈は十二萬五千五百
二十八圓、鹿島は四萬七千九百五十圓、東茨城は四萬五千七
百五十圓しかない、水産養殖では新治の一萬二百二十七圓が
首位で那珂は五千八百七十三圓、筑波は五千七百五十一圓、
鹿島は三千七十二圓、東茨城は二千六百三十八圓、水戸は二
千三百八十四圓、猿島は二千九十六圓、行方は千九百九十九圓
で、その他は何れも千圓以内である、水産製造物では鹿島郡
の百二十七萬三千三百四十四圓が第一位で多賀の百十四萬七千五
百二十六圓これに亞ぎ、久慈四十七萬七千八百九十九圓、那
珂三十六萬九千七百九十七圓、東茨城十三萬八千三百三十六
圓、行方九萬二千五百三十五圓、新治五萬九千八百二十四圓
稻敷八千五百八十九圓になつてゐる。而して

是に従事する水産業者

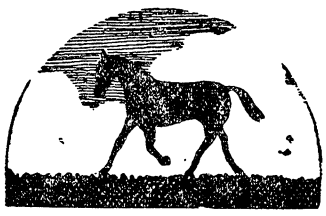
は二萬八千五百五十五人で、前年に比し八百六十七人三分一
厘を増してゐる。また漁船は

◇九年末現在船數六千五百八十二隻で内動力を有するもの
五百二十八隻◇九年内に新造せるもの七百十三隻で動力を
有するもの百七十一隻◇同年内廢用船六百五隻、内動力を
有するもの百九隻

で、之を前年に比べると年末現在數で九十七隻、年内新造
船が百五十四隻を増し、廢用船は二百二十五隻の増加である
是等漁船を郡市別にするに鹿島の千百三十八隻が首位で多賀
の八百七十五隻之に亞ぎ、行方の八百四十三隻、稻敷の八百
二十隻、東茨城の七百九十六隻、那珂の七百二十二隻、新治
の五百九十七隻、久慈の三百四隻、猿島の百九十隻、北相馬
の百四十三隻の順位となつてゐる。眞壁、結城、筑波、水戸
等何れも百隻を越えない。

以上水産物を種類別並に郡市別に示せば次の通りである。

郡名	總數	内			
		沿岸漁獲物	遠洋漁業	水産養殖	水産製造物
水戸	三、三三三	六二六	—	二、三六四	—
東茨城	三、五五五	一、八八八	—	一、六六六	—
西茨城	五、九九九	—	—	—	—
那珂	一、六六六	—	—	—	—
久慈	八、八八八	—	—	—	—
多賀	二、二二二	—	—	—	—
鹿島	二、二二二	—	—	—	—
行方	三、三三三	—	—	—	—
稻敷	六、六六六	—	—	—	—
新治	一、一〇〇	—	—	—	—
筑波	一、〇〇〇	—	—	—	—
眞壁	七、七八七	—	—	—	—
結城	八、八八八	—	—	—	—
猿島	一、〇〇〇	—	—	—	—
北相馬	一、五五五	—	—	—	—
合計	七、九〇三	二、八七〇	一、三六六	三、五五五	—



牛に虐げられて 馬がだんく減る

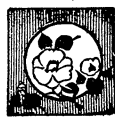
統計に現はれた本縣の畜産

昭和九年末における本縣の畜産(牛、馬、豚、綿羊、山羊)飼養戸数は牛一萬九千五百八戸、馬四萬二千九百五十三戸、豚三萬五千四百七十三戸、綿羊五十七戸、山羊一千七十四戸で前年に比し牛は一千二百十二戸(〇割七分)豚は二千四十三戸(〇割六分)綿羊は十七戸(四割三分)山羊は三百十七戸(四割二分)を孰れも増し、古來最も吾人に親みを持つ馬だけが一千六百二十九戸(〇割四分)を減じた、その飼養頭数は牛二萬一千四十九頭、馬四萬五千三百二頭、豚五萬五千九百六十七頭、綿羊百十九頭、山羊一千五百十八頭で前年に比し牛は一千二百九十四頭(〇割七分)豚は三千四百七十四頭(〇割七分)綿羊は五頭(〇割四分)山羊は四百六十九頭(四割五分)を孰れも増し馬は一千六百九十頭(〇割四分)を減じてゐる、耕牛が盛んになつた反響と見てよからうか。

又昭和九年中に於ける生産数は牛八百八十頭、馬一千二十頭、豚三萬六千五百十七頭、綿羊四頭、山羊三百十一頭に比し前年に比し牛は五十九頭(〇割七分)豚は二千九百六十七頭(〇割九分)山羊は百頭(四割七分)を孰れも増し馬は七十七頭(〇割七分)綿羊は十五頭(七割九分)を孰れも減少した。曾て本縣の産駒は相當に評判され大正九年の全盛期時代には生産二千余を數へ、一頭の價四五百圓を稱したるものあり、年産二十六萬圓にも達したといふに、今日では僅かに六萬圓内外に過ぎない、要するに馬の値は下る、アベコベに生産費が高むといふので漸次頽勢を辿るにいたつたものらしいが、資質は非常に良くなつてをり、頽勢も挽回しつゝあるやうだ。

各郡市別狀況左の如し

郡市名	飼養戸數					飼養頭數				
	牛	馬	豚	綿羊	山羊	牛	馬	豚	綿羊	山羊
水戸	二〇	三〇	六	一	二	三三	四八	三〇	一	二
東茨城	二、六〇〇	二、八四〇	三、三三三	一	一九	三〇、四〇〇	二、八七三	五、三九七	二	三
西茨城	四四	三、二一九	一、〇六六	四	五三	四、八五五	三、二七七	一、五九八	三	六
那珂	一、〇七六	二、九七六	三、九七三	六	八九	一、七九	三、〇三三	五、八六二	九	二七
久慈	四三三	五、八六八	一、〇五五	一五	七四	四、九三	六、八七四	一、七七一	二〇	一四
多賀	三三	三、三三三	一、三六一	一	一四	二、六一	四、三三三	二、五三三	一	六〇
鹿島	二、〇〇八	二、九六九	四、九〇八	一	二九	二、〇六六	三、〇四一	五、五七一	一	四〇
行方	一、三三六	二、一〇四	一、一六九	三	三三	一、七二	二、一四四	一、八〇一	八	一八
稲敷	三、一〇一	二、二二四	二、五八五	一五	六六	三、三三六	二、一五一	四、四七五	二五	四九
新治	一、五〇六	四、八八五	二、二六一	五	二六	一、六九	四、九二〇	四、三九四	一八	一五
筑波	一、〇〇〇	二、三六一	二、三三三	一	六六	一、三六	二、三三三	三、七七一	二	一四
眞壁	七三三	四、〇三三	三、四三三	一	三三	四、〇六	四、〇六一	五、六七一	一	三六
結城	一、五八三	二、四三三	三、四三三	三	三三	一、七一	二、四三三	五、六七一	三	三三
猿島	一、三三〇	二、四三三	三、四三三	一	一七	一、七一	二、四三三	五、六七一	一	二〇
北相馬	九七七	一、三三三	一、三三三	四	一七	一、〇一	一、三三三	一、三三三	一〇	三三
昭和九年末計	一、九、五〇八	四、二、九七三	三、九、七三三	五五	一、〇、四〇〇	三、〇、四〇〇	四、九、七三三	五、三、九七三	二、九	一、五、八
昭和八年末計	一、八、二六六	四、〇、五二二	三、〇、〇〇〇	四〇	七五七	二、九、七三三	四、六、九二二	五、三、九七三	二四	一、〇、九



歌短

丹 四郎選

春雜詠

(賞)

うちつとく日和よろしみ山狭の苗代小田に種子落しみゆ
稲敷、太田 五十嵐 康 尊

秀 逸

新芽ふく匂ひかそけき白樺に大き月暈かゝりたるかも

北海道、旭川 石 渡 義 男
そよくと揺れてかそけき櫻木の花ただしろし曇り日のもと

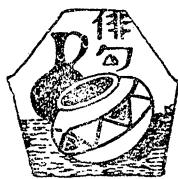
沼の面にはつはつ見ゆる若葦をうちかぶせつつ寄する風波
北相馬、高野 倉 持 公太郎

試みに植ゑし水田の菜種花今を盛りに咲き匂ふなり
行方、武田 境 勇

男子らと俵作りをうち競ふいそはら女ひたにさほへる
行方、武田 境 勇 草 風

(農業祭) 稲敷 吉田 逸 桑

百姓になりて肥えたるわが友の心安けくなりけるらし
北海道、上 磯 石 渡 星 華



前田 猶春選

題『春風』『椿』

東茨城郡小松村 園部 保彦

○ 春風の松しつかなる峠茶屋

○ 那珂郡野口村 西村 小雨

○ 水遠く白帆悠々と春の風 中山 晚香

○ 夕照や椿おちたる水の面 宮本 吐月

○ ゆらくと廣告球や春の風 眞柄 月川

○ 同 眞柄 月川

○ 縣道のほとりの小田の落椿 倉持 香邨

○ 北相馬郡高野村 倉持 香邨

○ せいらぎに落ちたまりたる椿かな 林 喜平

○ 鹿島郡豊郷村 林 喜平

○ 春風の窓にかけほす着物かな 會根 健而

○ 行方郡手賀村 會根 健而

思ふどちうちつれ來たる麥畑に立毛調べの日は暮れにけり
稲敷、奥野 海老原 松 光
菅の根の春日のどけき田に畑に鈴菜の花のいま盛りなり
行方、立花 今 泉 安之助
松並木ほのみえそめし曉の閑けき岡に雉子のなくなり

足らぬ身のたらぬがまゝに野に出てて獨り黙々接木して居り
久慈、金 砂 鈴木 音之介
鉞持てるころ勢いか清々しき朝の野良にたちいでにけり
北相馬、大野 吉田 秋 清

○ 身に觸るゝほどよき風を感じつゝ花時過ぎし梅園を歩めり
四 郎
鳴き勢ふ蛙のころは街中のわが家の店にときに聞え來

統計短歌 丹 四郎選
次回、課題……『夏雜詠』『青田』各題五首以内
宛名 茨城縣廳内統計協會
締切 六月二十日

蘭植うる春のそよ風あたりけり 高野 芳水

○ 山寺の門高々と椿かな 青木 斗南

○ 同 同 青木 斗南

○ 紅椿見ほれて憩ふ僧ひとり 吉田 逸桑

○ 春風や歩けばひかる女下駄 武内 涼風

○ 春風の耕土はさむき日暮かな 鈴木 音之介

○ 夕まけて厩はくらし春の風 境 勇

○ 地をうつつ椿落ちたる風の中 石渡 五十里

○ 春風や水しつかなる樓の影 武田 美代

○ 同 上磯町 武田 美代

○ 春風や点々とある移民小屋 石渡 石太郎

○ 落椿日輪阿寒の嶺に沈む 宇野 狸公之

○ 掃きやめて尼僧のひろふ椿かな 貝塚 苔人

○ 北相馬郡大野村 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

○ 同 貝塚 苔人

春風や素足になじむ日和下駄

○ 北海道上磯町

石渡 星華

草の上に眠りたる子や春の風

○ 旭川衛戍病院

石渡 石汀

春風や店の玩具の風ぐるま

○ 猿島郡幸島村

小倉 日雨

苗賣に日はなやける春の風

○ 那珂郡隣郷村

高部 樂風

古寺やほたりほたりと落椿

○ 稲敷郡金江津村

田仲 浦南草

ゆく水の底に色ある椿かな

○ 行方郡武田村

塙 草風

普請場に春の風ある 鮑屑

○ 同 秋津村

飯島 霞水

黄昏の寺寂として落つばき

○ 鹿島郡中野村

大川 貞

雨歇みて濁れる池や落椿

○ 同 豊郷村

石津 思水

隣る家と往來のみちの落つばき

○ 水戸市袴塚

大高 靜香

青々と春風すさぶ 籬かな

○ 行方郡武田村

鳥次 ゆた香



×川× ×柳×

山中緋郎選

『繭』

空気がけて繭の値安いな

繭賣つて娘嬉しく帯を買ひ

暴騰の繭に喜ぶ野良歸り

新聞の相場早速繭を賣り

かきとればそばから繭はころけ出し

名古屋市中區

稲敷郡金江津村

東京市神田區

北相馬郡東文間村堀越

宵雪

長谷川長樂

田仲 笑波

齋藤ふじ若

宵雪

鼻唄で繭煮る鍋の湯氣を浴び

損得もなく繭賣つてふと淋し

末つ子は繭をねだりて口で挽き

豫想よりいゝ繭の値にほつとする鹿島郡豊郷村

トラツクの繭滿載の空は晴れ

蠶棚のあんな所へ巢を造り

繭代を少し娘に無心され

繭安へ悲觀してゐる顔と顔

納税に來て繭の値をちと口説き

稲敷郡奥野村

青森縣上北郡

行方郡手賀村

北海道上磯町

東京市王子區

行方郡武田村

西茨城郡北川根村

北海道旭川市

福島縣飯坂町

吉田 逸桑

貝田 亂聲

武内 涼風

會根 健而

林 薫風

石渡 星華

村上 亘享

塙 草風

石渡よしを

吉田 笙人

春風や土春昇ぎてゆらぐ橋

○ 同

同人

落椿砂にさゝやくほどの雨

○ 同

佳作

住作

(賞)

北海道上磯町常磐町六三

石渡 石太郎

天霧ふ夜のウインドーの落椿

(評)他に取るべき句がない。この句も多少朱を加へた。これで花飾の飾窓の情景は充分に現はれて居ると思ふ。(選者)

選者 吟

前田 猶春

家たちてにひはりみちの落椿

○

おとなふて春風の戸の伏籠かな

○

次號 課題

題『金魚』『夏木立』一人十句以内

縮切 六月二十日限り

宛名 茨城縣廳内統計協會宛

賞 秀逸三名に粗賞を呈す

青木 斗南

石津 思水

影 微秋

高野 芳水

丸波 非風

北島 仁昭

境 勇

海老原松光

大阪府

行方郡武田村

稲敷郡奥野村

愛媛縣南宇和郡

夜なべした苦勞を笑ふ繭の出來

五 客

繭の値の景氣娘も恙なし

繭賣つて娘の縁談の日もさまり

繭の値に影響がある下宿の灯

儲かつた頃を語つて繭を挽き

繭賣つて母ひさしの髪を梳き

繭安へあんなに積んで淋しまれ

春蠶の掃立減す繭相場

繭賣つてまた糧となる貧の底

東京市日本橋區

京城府黃金町

東京市日本橋區

京都市下京區

大阪市天王寺區

水戸市袴塚町

那珂郡柳河村

東京市王子區

飯田 日進

小島大口坊

榎 太刀丸

宇の狸公三

山本 葉光

大高 靜香

木内 紅嵐

日野櫻笑子

選者吟

藪安の不況村の娘減つてゆき

次號 課題 『講習』一人五句以内

用紙 葉書又は同型のもの

締切 六月二十日

宛名 茨城縣廳内茨城縣統計協會

賞 三才粗賞を呈す

統計標語

統計は沈黙の警鐘なり
 統計と時計は正確を貴ぶ
 先づ統計次に善政
 確かな数字に後悔なし
 統計は雄辯の味方なし
 統計は國政の羅針盤なり
 統計の光は政治の基礎なり
 統計の数はより發す

寄贈圖書

昭和八年	簡易保險局統計年報	簡易保險局	全	主稅局第六十回統計年報書	大藏省主稅局
全	會社統計表	商工大臣官房統計課	全	朝鮮總督府施政年報	朝鮮總督府
全	長崎縣統計書(第三編)	長崎縣	全	青森縣統計書(第一、二、三、四各編)	青森縣
全	長崎縣勢要覽	全	全	鐵道統計資料	鐵道省
全	經理事務年報	逓信省經理局	全	物價統計表	商工大臣官房統計課
昭和九年	長崎縣米統計	長崎縣	全	兵庫縣統計表	兵庫縣統計協會
昭和八年	産業組合要覽	福島縣	第一卷第一號	人口問題	人口問題研究會
全	樺太廳統計書	樺太廳長官々房	昭和八年	東京府工場要覽	東京府總務部調査課
昭和九年	山形縣蠶桑統計	山形縣統計課	昭和八年	綿織物及絹織物年表	商工大臣官房統計課
昭和八年	千葉縣統計書(第五編)	千葉縣總務部	昭和五年	國勢調査報告(富山縣)	内閣統計局
昭和九年	梁和田村勢要覽	梁和田村役場	全	(鹿兒島縣)	全
昭和五年	高知縣養蠶統計	高知縣	昭和九年	兵庫縣統計事務一班	兵庫縣統計課
全	大阪米統計	大阪府總務部統計課	昭和八年	夏秋蠶統計	東京府調査課
全	國勢調査報告(岡山縣)	内閣統計局	昭和八年	航空統計年報(第四十四回)	逓信省航空局
全	(鳥取縣)	全	全	東京府統計書	東京府
全	(熊本縣)	全	全	大日本帝國港灣統計	内務省土木局
全	(廣島縣)	全	昭和九年	麥爾統計	山口縣
第四十九號	統計時報	内閣統計局	全	産米統計	全
昭和九年	福島縣夏秋蠶統計書	福島縣	昭和八年	滋賀縣統計全書	滋賀縣
大原社會問題研究所雜誌	大原社會問題研究所	大原社會問題研究所	第四回	學事統計要覽	愛媛縣
昭和九年	兵庫縣米統計表	兵庫縣統計課	昭和十年	勞働統計實地調査結果の概要	全
昭和七年	文部統計摘要	文部大臣官房文書課	昭和八年	大阪府勢一覽	大阪府
昭和八年	大分縣統計書第一、第二、第三編	大分縣	全	大阪府生産統計の概要	大阪府總務部
全	三重縣統計書第一編	三重縣	昭和八年	大阪府學事統計速報	大阪府總務部
三月號	いしずゑ	福岡縣統計協會	全	樺太廳治要覽	樺太廳
昭和九年	蕪統計表	農林大臣官房統計課			
昭和八年	農事統計表	農林大臣官房統計課			

編輯後記

創刊號に、先づ第一に申上げておいたやうに、私は新聞や雑誌の編輯については、多少の経験を持つものであるが、この「茨城統計」に盛られるところの内容は、今迄の私共が覗いて来た世界とは、丸つきりかけ離れてゐるやうな統計だ。呑み込めないうな、呑み込めないやうな統計だ。

模範町村をお訪ねして、折角立派な材料を與へられても、誌上に現はるゝ訪問記は、屹度、何かしら物足りないに違ひない、座談會においても同様、いろ／＼と皆さんから有益なお話を承つても、屹度肝腎な處を書き洩らしてゐるに違ひない。

さうした御不足御不満に對する皆さんのお叱りは、私充分にお受けして、そして勉強し、そして研究し、ほんたうに爲めになる雑誌にしたいと念じてゐる。

美辭麗句を連ねて、唯徒らに華やかなる雑誌を作らうといふならなんでもない、花も實もある雑誌、物笑ひにならぬ雑誌こそ、作りたいばかりに私は努力する、讀者諸君の御指導御鞭撻を希うてやまない。

訪問記は成るべく毎號續ける考へで、今後皆様にお目にかゝる機會も度々あらうと思はれる、誌上を以て豫めお願いしておきたい——富岡如夢

茨城統計と
廣告の効果

「茨城統計」は縣下三百八十ヶ町村及び各市町村の統計調査員三千九百名は勿論縣下各種団体、會社、工場等に配付し、中央各省、道府縣へも漏れなく配付するものにて廣告の効果偉大なるものがあると信じます。

□本誌廣告料金は左の通りです。

特別(一頁(表紙裏表)) 金貳拾圓
 (半頁(同)) 金拾五圓
 普通(一頁) 金拾圓
 (半頁) 金五圓
 (四分ノ一) 金參圓

□同一廣告を引續き二回以上のおときは、一割五分、五回以上のおときは二割の割引をします

□廣告に寫真挿入又は木版を要するものは其の費用を別に申受けます

□廣告料は前納に願ひます

茨城縣廳
茨城縣統計協會

昭和十年五月十三日印刷
 昭和十年五月十五日發行
 (隔月一回十五日發行)

水戸市北三ノ丸 一部金拾錢
 茨城縣統計協會内

發行所 編輯人 川崎 末吉
 水戸市南三ノ丸一〇七ノ二
 印刷所 柴印 柴印 柴印

水戸市北三ノ丸 茨城縣廳内
 發行所 茨城縣統計協會